

デジタルワイヤレス レシーバー

取扱説明書

DWR-R03D

お買い上げいただきありがとうございます。

DWX **WiDIF-HP**
DIGITAL WIRELESS  Cross Remote

目次

特長	4
各部の名称と働き	6
フロントパネル	6
リアパネル	9
準備	11
ラックマウント	11
システム構成	11
付属アンテナ使用例	11
ワードクロックとオーディオの接続例	12
受信チャンネルの設定	13
バンドブロックを選択する	13
周波数帯域を選択する	14
グループ/チャンネルを選択する	14
アクティブチャンネルスキャン機能を使う	15
クリアチャンネルスキャン機能を使う	15
スペクトラムアナライザー機能を使う	16
複数のレシーバーのチャンネルをまとめて 設定する	16
自動的に安全な周波数に切り換える	17
秘匿通信機能を使う	18
暗号鍵方式を使う (SECURE KEY/ AES256)	18
パスワード方式を使う (PASSWORD)	19
オーディオコーデックモードを設定する	20
メニューの表示と詳細設定	20
メニューの構成と階層	20
メニューの基本操作	22
RECEIVER (レシーバー) メニュー	22
周波数帯域の選択 (BAND)	22
グループ/チャンネルの選択 (GP/CH)	22
アクティブチャンネルスキャン機能 (ACTIVE CH SCAN)	22
クリアチャンネルスキャン機能 (CLEAR CH SCAN)	22
スペクトラムアナライザー機能 (SPECTRUM ANALYZER)	23
秘匿通信機能 (ENCRYPTION)	23
オーディオコーデックモードの設定 (CODEC MODE)	23
アナログ音声出力レベルの設定 (MAIN OUT LEVEL)	23
グラウンドリフトの設定 (GROUND LIFT)	23
オーディオ出力の設定 (AF OUTPUT)	23
送信機探索機能 (SEARCH TX)	24
ラベル機能 (CHANNEL LABEL)	24
TRANSMITTER (トランスミッター仮想)	
メニュー	24
トランスミッター名称の表示 (NAME)	24

省電力設定の表示 (POWER SAVE)	24
送信電力設定の表示 (RF POWER)	25
オーディオ入力レベルの表示 (INPUT LEVEL)	25
アッテネーターの表示 (ATT)	25
ローカットフィルター設定の表示 (LCF)	25
+48 V 電源設定の表示 (+48V)	25
累積使用時間の表示 (TIME)	25
内蔵信号発生の表示 (INTERNAL SG)	25
ロック設定の表示 (LOCK)	25
POWER スイッチの状態 (PWR SW STATE)	25
電池残量の表示方式 (BATTERY REMAIN)	25
RF REMOTE メニュー	25
Cross Remote を使う (RF REMOTE)	25
ペアリングを行う (PAIRING)	25
リモートのモードを表示する (MODE)	27
UTILITY メニュー	27
受信に関する機能 (RF サブメニュー)	27
音声に関する機能 (AUDIO サブメニュー)	28
冗長性に関する機能 (REDUNDANCY サブメ ニュー)	29
ネットワークに関する機能 (NETWORK サブメ ニュー)	29
アラートに関する機能 (ALERT FUNCTION サブメニュー)	30
受信信号品質の低下を判断するレベルを設定す る (QL ALERT SENS)	31
ディスプレイに関する機能 (DISPLAY サ ブメニュー)	31
本機の設定変更を禁止する (SETTING LOCK)	31
設定記憶機能 (USER MEMORY)	31
工場出荷設定に戻す (FACTORY PRESET)	31
ソフトウェアバージョンの表示 (VERSION)	31
本機でトランスミッターの設定を変更する	32
周波数帯域の設定 (BAND)	32
グループ/チャンネルの設定 (GP/CH)	32
トランスミッター名称の設定 (NAME)	32
省電力設定 (POWER SAVE)	32
送信電力の設定 (RF POWER)	32
オーディオ入力レベルの設定 (INPUT LEVEL)	32
アッテネーターの設定 (ATT)	32
ローカットフィルターの設定 (LCF)	33
+48 V 電源設定の変更 (+48V)	33
トランスミッターの累積使用時間のリセット (TIME)	33
オーディオコーデックモードの設定 (CODEC MODE)	33
内蔵信号の設定 (INTERNAL SG)	33

ロック機能 (LOCK)	33
電池残量の表示方式の設定 (BATTERY REMAIN)	33
ブロックダイヤグラム.....	34
ALERT インジケーターが点灯したら	35
エラーメッセージ.....	36
故障かなと思ったら	37
使用上のご注意	38
使用・保管場所.....	38
お手入れ	38
送信機のソフトウェアバージョンについて	38
CODEC MODE の互換性について.....	38
受信電波が弱い場合の音声劣化について	38
ライセンスについて	39
主な仕様	39
対応する周波数帯とチャンネル間隔.....	41



指示

クロスリモートのペアリングをする際に

受信機で送信機の設定を変える際には、必ず免許状に記載された周波数および空中線電力に従った設定にしてからご使用ください。

* 本機の初期設定は先頭グループ (00) の先頭チャンネル (グループ内の最も低い周波数) に設定されています。

特長

DWR-R03D は、テレビホワイトスペース帯、特定ラジオマイク専用帯、1.2 GHz 帯を使用した特定ラジオマイクの陸上移動局の無線設備（A 型）および 806 MHz ～ 810 MHz 帯を使用した特定小電力無線局ラジオマイク用無線設備（B 型）に対応する、1U サイズ 2 チャンネル受信のデジタルワイヤレスレシーバーです。ソニーのデジタルワイヤレストランスミッターと組み合わせてご使用ください。

本機には、テレビホワイトスペース帯（WS 帯）専用モデルと、1.2 GHz 帯に加えて WS 帯の一部および B 型をカバーしたモデルの 2 モデルがあります。

WS モデル

WS 帯（470 ～ 710 MHz）および特定ラジオマイク専用周波数帯（710 ～ 714 MHz）に対応したモデルです。

G モデル

WS 帯（638 ～ 714 MHz）、B 型（806 ～ 810 MHz）および 1.2 GHz 帯（1240 ～ 1260 MHz）に対応したモデルです。

DWX とは

DWX は、業務用マイクロホンに代表される音作りのノウハウと、安定性に定評のあるワイヤレス伝送技術に、最新かつオリジナルのデジタルオーディオ技術を融合させたソニーのデジタルワイヤレスマイクロホンシステムです。

DWX は、デジタルならではの高音質伝送に加え、多チャンネル同時運用、暗号化伝送、トランスミッターの状態をモニターするメタデータ伝送、さらに本線系と別系統の通信機能をもつことで、レシーバーからトランスミッターをコントロールするといった、さまざまな革新的ワークフローを実現します。

WiDIF-HP とは

「WiDIF-HP」（WiDIF：Wireless Digital Interface Format、HP：High Profile）は、ソニーが独自に開発した、システムの核となるワイヤレスのデジタルオーディオインターフェースです。

これにより、高音質かつ低遅延、そして多チャンネル同時運用と秘匿伝達を実現しました。

“Cross Remote” とは

“Cross Remote” は、レシーバー本体やレシーバーに接続されているコンピューターにインストールされたコントロールソフトウェア “Wireless Studio” から、トランスミッターを監視／制御するためのシステムです。

例えば、衣装の下などに装着されたトランスミッターの設定変更も、ワイヤレスで簡単に行えます。

混信が少ない免許制 A 型規格と免許不要の B 型規格

本機は、運用調整により他との混信の心配が少ない A 型規格および免許不要の B 型規格に準拠したラジオマイクレシーバーです（B 型規格に準拠しているのは G モデルのみ）。簡単なボタン操作でチャンネルの切り換えが可能です。

多チャンネル同時運用チャンネルプランを内蔵

A 型規格および B 型規格の各帯域に対応した、375 kHz 間隔の多チャンネル同時運用チャンネルプランを内蔵。最大 82 チャンネル同時運用を実現します。また、アナログ、デジタル混在プランも内蔵しているため、混在使用時にもチャンネルの設定が簡単に行えます。

Dante オーディオネットワークに対応

2 つの Dante ポートにより、マルチチャンネルオーディオの IP 伝送はもちろん、リダンダンシーにも対応。また、ヘッドホンを差し替えることなく別の受信機の音声をモニタリングすることが可能です。

安定した RF 伝送

X-Dimension Diversity 受信システム* および高ダイナミックレンジの RF 回路により、安定した RF 伝送を実現。また、広範囲の受信エリアの確保や比類のない RF 伝送性能を実現する 4 ダイバーシティ受信システムにも対応しています。

* ソニーの高いデジタル技術と高精度な計算アルゴリズムにより複数の異なる次元のダイバーシティを組み合わせ、伝送の安定度を飛躍的に進化させた独自のダイバーシティ方式です。

Cross Remote によるワイヤレスリモートコントロールシステム

デジタルワイヤレストランスミッターの設定を、本機のディスプレイで確認しながら遠隔コントロール可能。また、PC コントロールソフトウェアを使用して、コンピューターから遠隔コントロールすることもできます。

AUTO CHANNEL COORDINATE 機能

受信機同士で通信を行い、PC を使わずに電波環境に応じたチャンネルプランを構築することができます。チャンネル設定は、受信機とペアリングされている送信機にも反映されます。

AUTO FREQUENCY CHANGE 機能

電波状況が悪化した際に電波状況が良好な周波数に自動的に変更することで、音声のドロップアウトを最小限にする機能です。ホストとなる受信機のチャンネル 1 で周波数スキャンを行い、安全な周波数リストを常時保持します。他のチャンネルの受信データの品質が低下すると、該当する

受信機およびペアリングされた送信機で使用する周波数を電波状況が良好な周波数に変更します。

で注意

周波数が切り替わる際、通信状況によって多少の音切れが発生します。

ワイヤレススタジオによる運用状況の監視と各機器の遠隔コントロール

Wireless Studio を使用することにより、運用に使用する各レシーバー、トランスミッター、RMU のステータスを一括監視したり、各レシーバー、トランスミッターの設定を変更することができます。また、設定ファイルの保存、呼び出し、設定の一括編集が可能です。

4つのオーディオコーデックモードを搭載

使用状況に応じて、オーディオコーデックモードを切り換えることができます。

◆ 詳しくは、「オーディオコーデックモードを設定する」(20 ページ)をご覧ください。

フレキシブルに設定可能なオーディオ出力

アナログ (バランス) と AES/EBU デジタルの切り換えが可能な SUB OUT 端子を装備。また、オーディオ出力は 1 dB ステップでレベル調整が可能です。

OUTPUT SWAP 機能

本機のボタン操作で 2 つのチューナーの音声出力先を入れ換えることができます。

リダンダンシーのために 1 人のユーザーが 2 つの送信機を使用しているときに一方の送信機に異常が生じた場合、オーディオケーブルを接続し直すことなく、素早い切り換えが可能です。

暗号化伝送

AES256 bit 暗号化伝送による強固な秘匿性を持たせたワイヤレス伝送が可能です。

チャンネルスキャン機能を搭載

未使用のチャンネルを探す「クリアチャンネルスキャン」と、使用中で受信可能なチャンネルを探す「アクティブチャンネルスキャン」の 2 種類の周波数スキャン機能を搭載しています。これにより、スピーディーで安全な運用チャンネルのセッティングが行えます。

スペクトラムアナライザー機能

周波数をスキャンし、妨害波をグラフとして表示することで周囲の電波状況を把握できます。また、スキャン結果から安全な周波数を選び、設定することもできます。

アンテナカスケード接続

最大 8 台までアンテナカスケード接続することができ、アンテナディバイダーなしで 16 チャンネルまでの運用が可能。また、別売のアンテナディバイダー WD-01 を使用すると、16 チャンネル以上のシステムを構築することもできます。

で注意

DIVERSITY 設定で 4-ANTENNA が選択されていると、4 つのアンテナ端子がすべて入力端子になるため、カスケード接続はできません。4-ANTENNA 選択時に 2 チャンネル以上を運用したい場合は、別売のアンテナディバイダーを使用してください。

ラベル機能

レシーバーのチャンネルごとに名前を設定することにより、トランスミッターの電源が OFF のときでも名前の表示が可能です。

多彩な情報表示と操作性の向上

各チャンネルに独立した大型有機 EL 表示素子 (Organic Light-Emitting Diode) の採用により、運用時に必要な多彩な情報表示が可能。大型表示窓と各メニューボタン、およびジョグダイヤルによるスピーディーな操作性を実現しています。

また、運用上のトラブルが発生した場合にはフロントパネル上の ALERT インジケーターが点灯するため、迅速な対応が可能です。

AC 出力端子

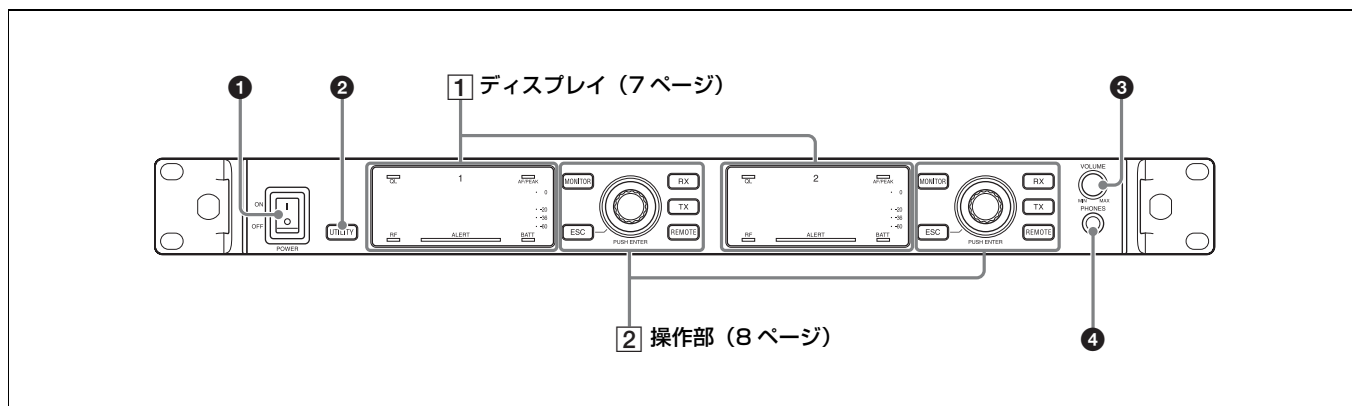
電源をカスケード接続可能です。

その他の便利な機能

誤操作を防止するセッティングロック機能、各種設定をレシーバー本体に保存/呼び出しすることができるユーザー設定メモリー機能を搭載。また、ペアリングされているトランスミッターを検索したり、トランスミッターからレシーバーを検索することが可能です。

各部の名称と働き

フロントパネル



❶ POWER (電源) スイッチ

本機の電源を入/切します。

■側を押すと、電源が入ります。主電源を切るときは、○側を押します。

❷ UTILITY (ユーティリティーメニュー表示) ボタン

押すと UTILITY メニューを表示します。UTILITY メニューの操作中には明るく点灯します。

❸ VOLUME (モニター音量調節) つまみ

回すと、選択したチャンネルのモニター音量を調節します。

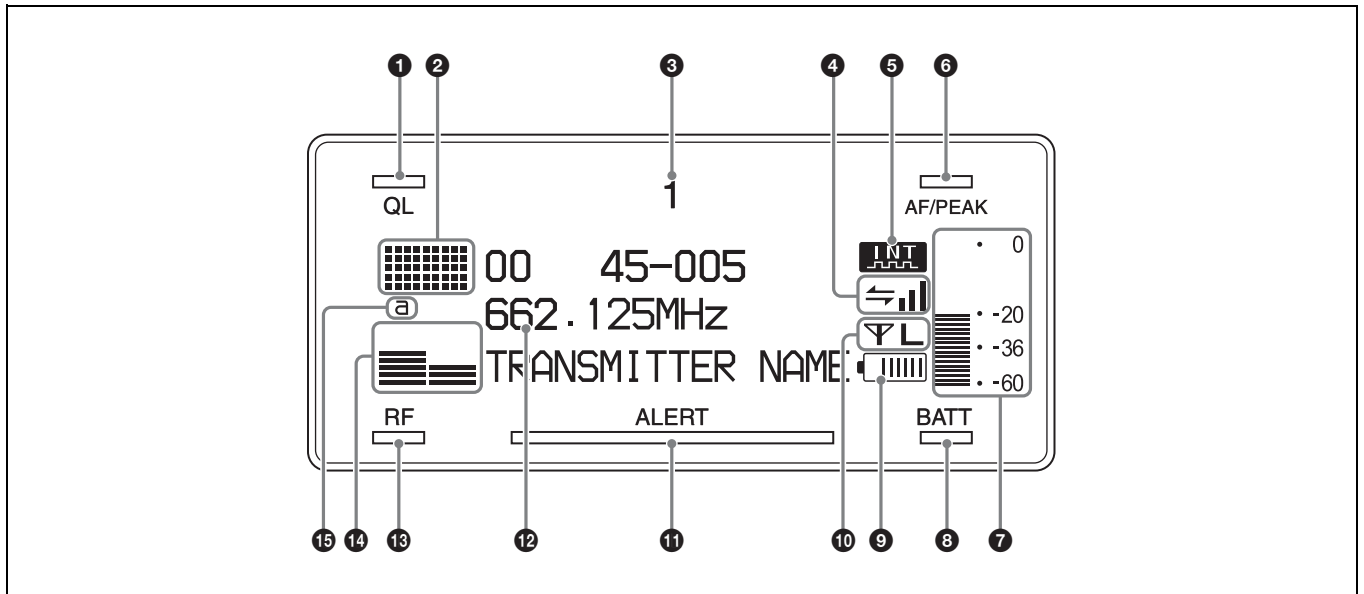
❹ PHONES (ヘッドホン) 端子 (標準ステレオジャック)

ヘッドホンを接続します。

1 ディスプレイ部

以下のイラストでは、メニュー画面に入る前の状態（トップ画面）の表示内容を示しています。トップ画面は、レシーバーとしての情報表示だけでなく、トランスミッターからメタデータで送られてくる情報も表示するため、運用監視画面として使用できます。

チャンネル1とチャンネル2のディスプレイの表示内容は同じですが、ここではチャンネル1のディスプレイを使って説明しています。



① QL (受信品質) インジケータ

受信データの品質が正常なときは緑色に点灯し、QLメーターの点灯本数が減少すると赤く点灯します。

② QL (受信品質) メーター

受信データの品質をメーター表示します。
本機とトランスミッターが離れてRF信号の受信感度が下がったり、妨害波を受信した場合などに起こる受信信号の品質の悪化を監視することができます。

③ レシーバーチャンネル番号

本機のチャンネル番号を表示します。

④ Cross Remote コンディション表示

ペアリングされたトランスミッターとの通信状況を4段階で表示します。

📶：通信状況が良好

📶：通信状況がやや良好

📶：通信状況がやや良くない

📶：通信状況が良くない

📶：ペアリングされたトランスミッターと通信できない

📌 ご注意

本機のRF REMOTE機能をOFFにしている場合、このアイコンは表示されません。

⑤ デジタル出力同期表示

DIGITAL OUT 端子から出力される信号の同期状態を表示します。

INT：内部クロックと同期している

EXT：WORD SYNC IN 端子から入力された信号と同期している

⑥ AF/PEAK (オーディオ入力) インジケータ

トランスミッターに入力するオーディオ信号が基準レベルを超えると緑色に点灯し、トランスミッター内のA/Dコンバーター入力が-3 dBFs以上になると赤く点灯します。

⑦ オーディオレベルメーター

トランスミッターに入力されたオーディオ信号のレベルを表示します。

トランスミッターの基準入力レベル以下の入力を示すセグメントは、減光表示されます。

トランスミッターの基準入力レベルが「MIC」に設定されている場合：-36 dBFs以下を示すセグメントが減光表示
トランスミッターの基準入力レベルが「LINE」に設定されている場合：-20 dBFs以下を示すセグメントが減光表示

⑧ BATT (バッテリー警告表示) インジケータ

トランスミッターの電池の残量がある場合は緑色に点灯し、電池残量表示が点滅を始めると赤く点灯します。

⑨ 電池残量表示

受信したメタデータにより、トランスミッターの電池の残量をトランスミッターの電池残量表示に従って表示します。

電池残量表示が点滅を始めたなら、すぐにトランスミッターの電池をすべて新しいものに交換してください。

◆ トランスミッターの電池残量表示の設定や電池交換について詳しくは、トランスミッターに付属の取扱説明書をご覧ください。

10 送信電力表示

トランスミッターで設定された送信電力を表示します。この設定は TRANSMITTER メニューで変更できます。

	送信電力表示		
	▽ H	▽ M	▽ L
DWT-B03R (G モデル、W モデル)	25 mW	10 mW	2 mW
DWT-B03R (B モデル)	10 mW	表示なし	2 mW
DWT-B01N (B モデル)	10 mW	表示なし	1 mW
DWM-02N (B モデル)	10 mW	表示なし	1 mW
その他のトランスミッター	50 mW	10 mW	1 mW

11 ALERT (警告表示) インジケーター

本機に運用トラブルの可能性が発生したときに赤く点灯して警告します。

◆ 警告が発生する具体的な原因と対応方法について詳しくは、「ALERT インジケーターが点灯したら」(35 ページ)をご覧ください。

12 受信チャンネル情報

受信情報とトランスミッター名を表示します。

1 行目：グループとチャンネル

2 行目：チャンネルの周波数

3 行目：トランスミッターの名前と SLEEP 状態

13 RF (受信電波) インジケーター

ANTENNA IN 端子から入力された受信電波のレベルによって、以下のように点灯します。

橙色点灯：87 dB μ (0 dB μ =1 μ V_{EMF}) 以上

緑色点灯：25 ~ 87 dB μ (0 dB μ =1 μ V_{EMF})

赤色点灯：15 ~ 25 dB μ (0 dB μ =1 μ V_{EMF})

消灯：15 dB μ (0 dB μ =1 μ V_{EMF}) 未満

14 RF (受信電波) レベルメーター

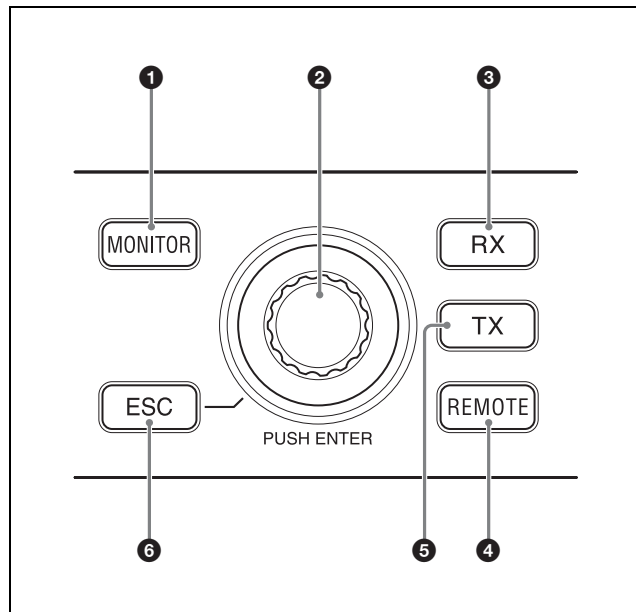
ANTENNA IN 端子から入力された受信電波のレベルをメーター表示します。入力レベルにより点灯するゲージの数が変わります。

15 アンテナ選択表示

本機のダイバーシティ機能によって受信選択されているアンテナ入力を表示します。

2 操作部

チャンネル 1 とチャンネル 2 の操作部は同じです。



1 MONITOR (モニター出力選択) ボタン

押すと明るく点灯し、対応するチューナーチャンネルの出力をヘッドホンでモニターすることができます。

モニター出力は、UTILITY > AUDIO > MONITOR MODE の設定によって、選択したチューナーチャンネルのみを出力、複数のチューナーチャンネルをミックス出力、などに設定できます。

ご注意

MONITOR MODE を IP SOLO または IP MIX に設定している場合は、MONITOR ボタンが点灯するまで長押ししてください。

◆ 詳しくは、「モニターモードの設定 (MONITOR MODE)」(28 ページ)をご覧ください。

2 ジョグダイヤル

ディスプレイに表示される機能や値を選択するときに回し、選択した機能や値を確定するときに押します。

3 RX (RECEIVER メニュー選択) ボタン

RECEIVER メニューを表示するときに押します。RECEIVER メニューを操作中は、明るく点灯します。

4 REMOTE (RF REMOTE メニュー選択) ボタン

RF REMOTE メニューを表示するときに押します。RF REMOTE メニューを操作中は、明るく点灯します。

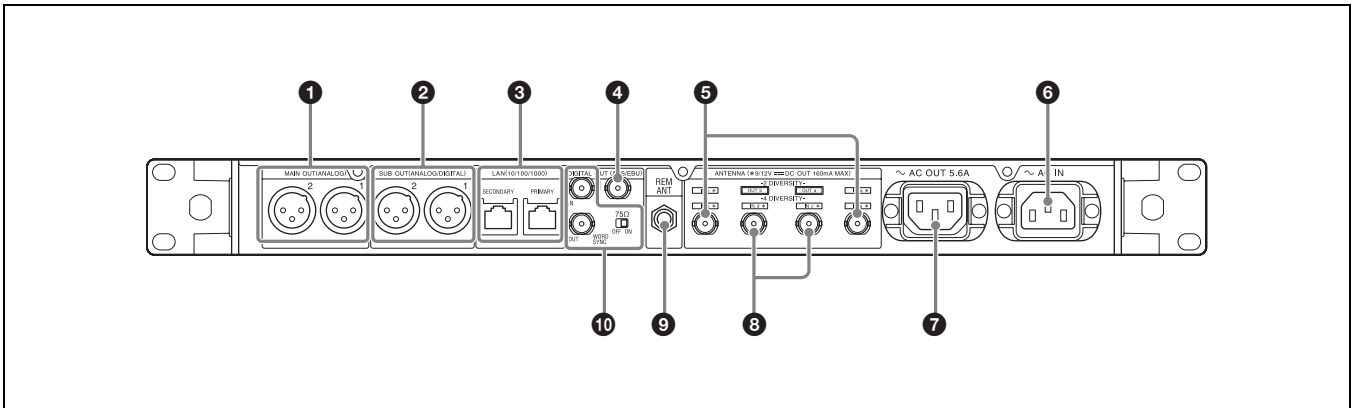
5 TX (TRANSMITTER 仮想メニュー選択) ボタン

TRANSMITTER メニューを表示するときに押します。TRANSMITTER メニューを操作中は、明るく点灯します。

6 ESC (エスケープ) ボタン

メニュー操作時に、ひとつ前の画面に戻るときに押します。

リアパネル



① MAIN OUT (メイン出力) (アナログ出力) 1/2 端子 (XLR)

ミキサーやアンプなどのアナログ入力端子に接続します。メニュー操作で、出力レベルの切り換えおよび XLR コネクターのグラウンド (1 ピン) とシャーシグラウンドを切り離すことができます。

② SUB OUT (サブ出力) (デジタル/アナログ出力) 1/2 端子 (XLR)

AES3 フォーマットのデジタル音声信号またはアナログ音声出力します。メニュー操作で、出力の切り換えができます。

③ LAN (イーサネット) (10/100/1000) / Dante (Dante ネットワーク) PRIMARY/SECONDARY 端子 (RJ-45)

1000Base-T 方式のネットワーク接続用端子です。Windows パソコンまたはハブと接続し、Wireless Studio を使用して通信を行います。

また、Dante デジタルオーディオに対応し、マルチチャンネルオーディオの IP 伝送はもちろんのこと、リダダンシーやヘッドホンモニタリングも可能です。

接続には、カテゴリ 5e 以上の LAN ケーブルを 100 m 以内の長さで使用してください。接続に必要なケーブルの長さが 100 m を超える場合は、接続機器と本機との間にハブなどを接続してください。

UTILITY > NETWORK > NETWORK MODE の設定によって、LAN 端子からネットワークに伝達される信号を設定できます。

本機はスイッチングハブ機能があるため、NETWORK MODE を SWITCHED に設定するとダイジェーション接続による運用もできます。

ヘッドホンモニタリングを使用する際は、モニタリングしたい機器すべてを Dante オーディオネットワークと DWX 機器間通信の両方で接続し、UTILITY > AUDIO > MONITOR MODE の設定値を揃えてください。

④ DIGITAL OUT (デジタル出力) 端子 (BNC-R)

AES3 フォーマットのデジタル音声信号を出力します。ミキサーやアンプなどのデジタル入力端子に接続します。

⑤ ANTENNA a/b IN (アンテナ a/b 入力) 端子 (BNC-R)

a/b IN 端子それぞれに、グラウンドプレーンアンテナ AN-57 やアンテナブースター WB-01、付属のホイップアンテナを取り付けます。

アンテナに供給する電源は、メニュー操作で DC 9 V/12 V の切り換えが可能です。電源を必要としないアンテナを接続する場合には、電源供給をオフにすることもできます。

また、アンテナブースター付きの UHF アンテナ AN-01 やアンテナブースター WB-01 をリモートモードに設定することで、本機のメニューからブースターのゲインを設定できます。

ご注意

- この端子をショートさせないでください。
- 本機をカスケード接続する場合、アンテナを直接接続していない DWR-R03D は、ANT ATT a/b を「0dB」、ANT DC OUT を「OFF」にしてください。

アンテナゲインとケーブル損失について

本機にブースター付きのアンテナを接続した場合、アンテナのゲインがアンテナと本機の間と同軸ケーブル損失を上回っていると、RF 入力レベルが本機の許容範囲を超えるおそれがあります。

本機でアンテナのアッテネーターを設定のうえ (0 dB、3 dB、6 dB、9 dB、12 dB)、以下の計算式が成立するようにケーブル損失を設定してください。

本機の RF インジケーターは 87 dB μ (0 dB μ =1 μ V_{EMF}) 以上の入力で橙色点灯となりますので、目安としてください。

アンテナブースターのゲイン – アンテナと本機間のケーブル損失 – アッテネーター設定 (dB) = 0 dB 以下

ケーブル損失の目安 (TV WS 帯および 1.2 GHz 帯)

ケーブル長 (m)	ケーブル損失 (dB) (上段: TV WS 帯使用時、 下段: 1.2 GHz 帯使用時)	
	汎用タイプ	低損失タイプ
10	5D-2W (5D-2V)	5D-FB
	2.6	1.8
30	3.5	2.3
	7.9	5.4
60	10.5	6.9
	15.8	10.7
100	21	13.8
	26.4	17.9
	35	23

◆ アンテナブースターのゲインについては、ご使用になるアンテナに付属の取扱説明書をご覧ください。

で注意

- ケーブルのメーカーによって、ケーブル損失には多少の差があります。
- ANTENNA IN 端子のインピーダンスは、定格 50 Ω です。75 Ω のケーブルを使用すると、通常は上表の数値よりも数 dB 高い値になります。

6 AC IN 端子

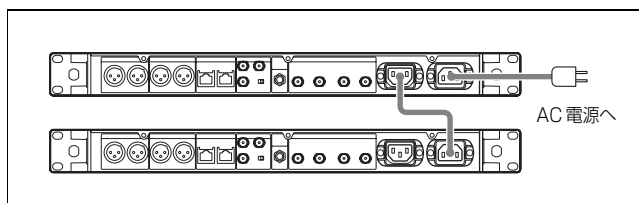
付属の AC 電源コードで AC 電源に接続します。

7 AC OUT 端子

付属の電源カスケード用コードを使用して、最大 3 台の DWR-R03D を 1 つの AC 電源に接続して使用できます。

で注意

- 付属の電源カスケード用コードを使用したカスケード接続は、使用環境によって接続台数に制限があります。この制限を超えて接続すると、火災や感電の原因となることがあります。
 - IT 配電システムに接続する場合は 2 台まで
 - 日本国内では 3 台まで
 - その他の国では 5 台まで
- 付属の電源カスケード用コードを使用して DWR-R03D をカスケード接続する場合は、下図のように重ねて設置するかラックにマウントしてください。



8 ANTENNA a/b OUT (アンテナ a/b 出力) または ANTENNA c/d IN (アンテナ c/d 入力) 端子 (BNC-R)

ANTENNA a/b OUT 端子それぞれに DWR-R03D を接続し、最大 8 台までカスケード接続することができます。また、メニュー操作により 4 ダイバーシティ受信モードを選択した場合は、ANTENNA c/d IN 端子となります。ANTENNA a/b IN 端子と同様に、アンテナやアンテナブースターを接続します。

9 REM ANT (ST リモートアンテナ)

ST リモートシステム用外部アンテナです。

10 WORD SYNC IN/OUT (同期信号入出力) 端子 (BNC-R) と 75 Ω 終端スイッチ

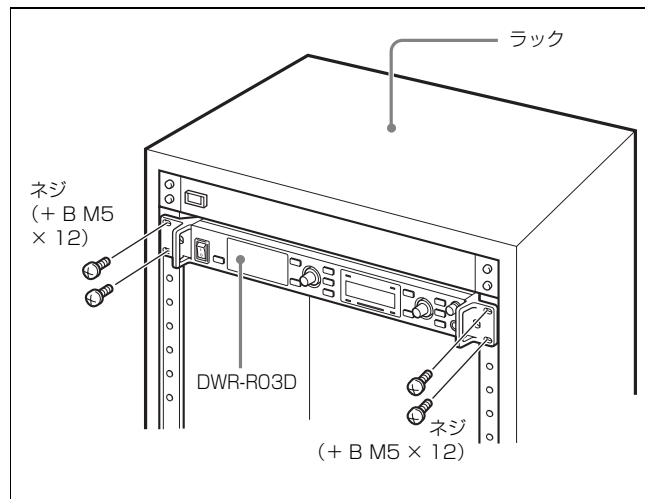
デジタル出力を外部からの同期信号に同期して出力する場合は、WORD SYNC IN 端子に外部同期を入力します。WORD SYNC IN 端子から入力した同期信号を、そのまま OUT 端子から出力します。カスケード接続の終端にあたる DWR-R03D のみ 75 Ω 終端スイッチを ON にしてください。

◆ WORD SYNC 端子の接続について詳しくは、「ワードクロックとオーディオの接続例」(12 ページ) をご覧ください。

準備

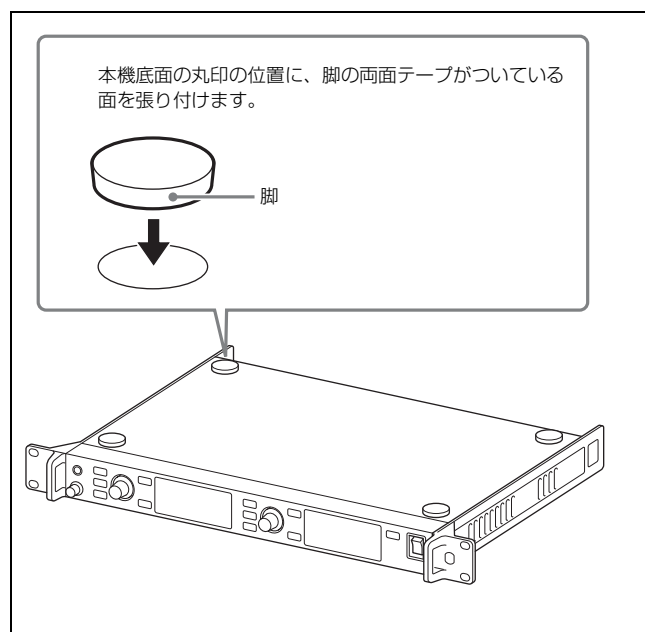
ラックマウント

本機を取り付けるラックは、EIA 規格 19 インチ標準ラックで奥行きが 350 mm 以上あるものをお使いください。



ラックマウントせずに使用するとき

本機の底面に、付属の脚（4 個）を取り付けます。



ラックマウントするときには、脚を取り外してください。

システム構成

本機では、Wireless Studio を使用して運用状況の監視と各機器の遠隔コントロールをしたり、NT リモートや ST リモートを活用することによって用途や運用環境に応じて利便性の高いシステムが構築可能です。

各システムで使用できる機器と最大設置台数は、以下のとおりです。

ご注意

イーサネット経由で RMU-01 を認識すると、本機は自動的に NT リモートシステムモードに切り換わります。RMU-01 を認識しない場合は、ST リモートシステムモードに切り換わります。

RMU-01 と本機は同じネットワークに接続してください。ワイヤレスリモートコントロール機能は、2.4 GHz 電波で本機や RMU-01 から変更命令を受けて、音声パケット内のメタデータで応答を行います。そのため、ワイヤレスリモートコントロール機能は、トランスミッターからの音声電波が届く範囲で使用してください。

Wireless Studio を使用する場合

接続機器	ステータス監視 (モニター)	遠隔操作 (リモート)	
		NT リモート	ST リモート
DWR-R03D	1 ~ 41 台	1 ~ 41 台	1 ~ 3 台
ソニーデジタルワイヤレストランスミッター	1 ~ 82 台	1 ~ 82 台	1 ~ 6 台
リモートコントロールユニット RMU-01	監視のみの場合は不要	1 ~ 9 台	本機リアパネルのアンテナが動作するため不要

Wireless Studio を使用しない場合

接続機器	ステータス監視 (モニター)	遠隔操作 (リモート)	
		NT リモート	ST リモート
DWR-R03D	監視機能なし	1 ~ 41 台	1 ~ 3 台
ソニーデジタルワイヤレストランスミッター		1 ~ 82 台	1 ~ 6 台
リモートコントロールユニット RMU-01		1 ~ 9 台	本機リアパネルのアンテナが動作するため不要

付属アンテナ使用例

本機の受信性能を最大限に生かすために、別売のグラウンドプレーンアンテナ AN-57 やアンテナブースター WB-01 などを使用して運用することをおすすめします。

ただし、サービスエリアが狭い場合には、付属のホイップアンテナを使用して運用することも可能です。

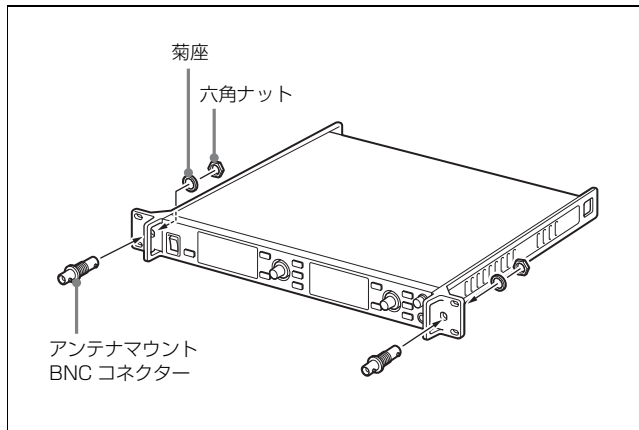
ご注意

付属のホイップアンテナを使用する際には、サービスエリアの確認を十分行ってください。

付属のホイップアンテナは、フロントパネルにもリアパネルにも取り付けられます。

フロントパネルへの取り付け

- 1 市販のアンテナマウント BNC コネクタをフロントパネルに取り付け、六角ナット（14 mm）で締め付ける。

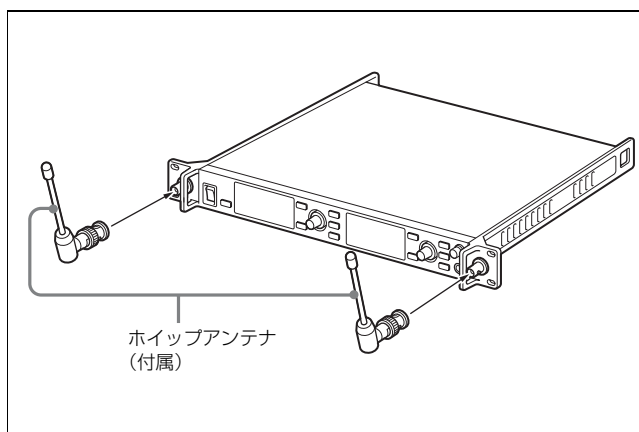


ご注意

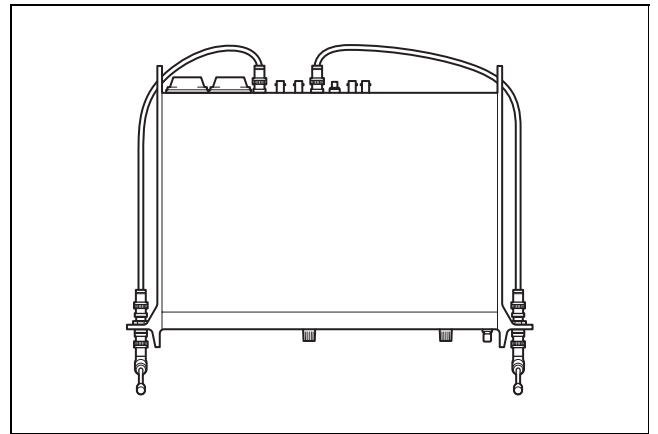
六角ナットがフロントパネルの表側になるように取り付けることもできます。

フロントパネルの裏側で六角ナットを締め付けることが難しい場合は、アンテナマウント BNC コネクタをフロントパネルの裏側から取り付け、表側から六角ナットを締め付けてください。

- 2 付属のホイップアンテナを取り付ける。

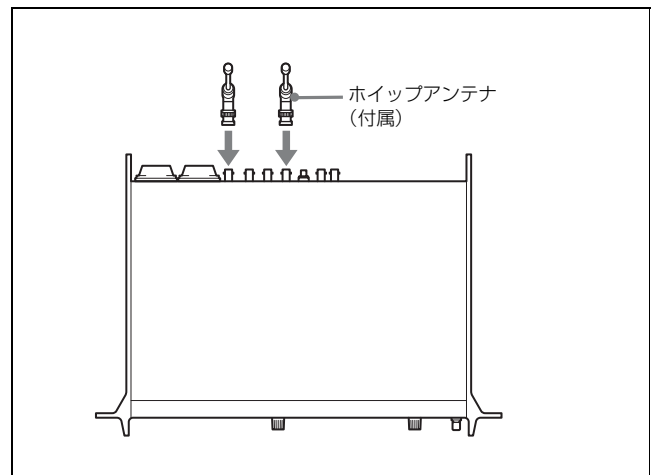


- 3 リアパネルの ANTENNA a/b IN 端子とアンテナマウント BNC コネクタ間に、市販の BNC ケーブル（50 Ω、60 cm 以上）を接続する。



リアパネルへの取り付け

リアパネルの ANTENNA a/b IN 端子に付属のホイップアンテナを接続してください。



ワードクロックとオーディオの接続例

デジタルオーディオ出力を正しく運用するためには、サンプリングレートコンバータが搭載された機器を本機の DIGITAL OUT 端子に接続するか、本機の WORD SYNC IN 端子にマスターワードクロック信号を入力して同期する必要があります。

マスターワードクロック信号を入力して同期するシステムには、次の2種類があります。

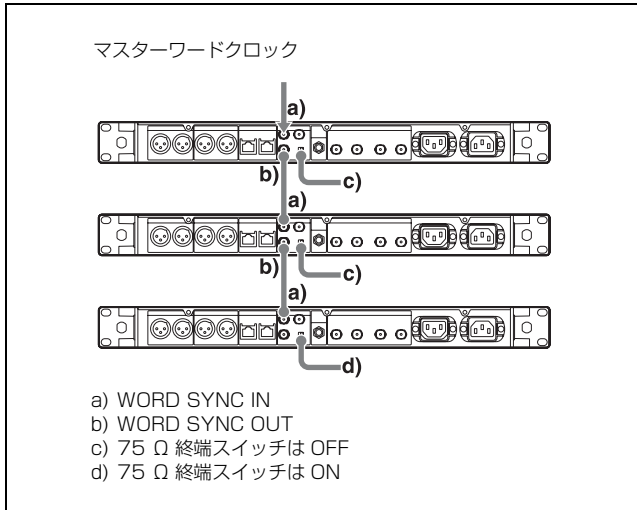
ご注意

接続する台数が多い場合には、カスケード接続はおすすめできません。ワードクロック分配器の使用をおすすめします。

同期システム例 1

マスターワードクロック信号を本機の WORD SYNC OUT 端子でカスケード接続するシステムです。

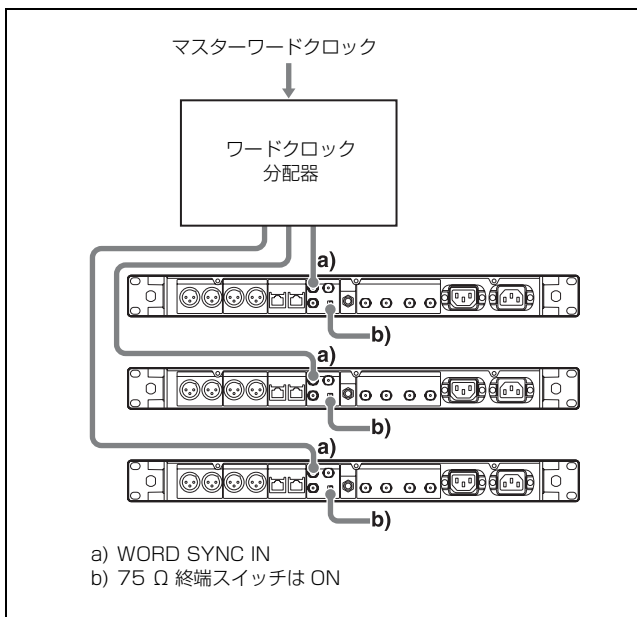
カスケード接続の終端にあたる DWR-R03D のみ 75 Ω 終端スイッチを ON にしてください。



同期システム例 2

マスターワードクロック信号を分配器で分配し、それぞれの機器に接続するシステムです。

すべての DWR-R03D の 75 Ω 終端スイッチを ON にしてください。



受信チャンネルの設定

本機には混信を起こさないチャンネルの組合せがグループとして用意されています。同一エリア内で、複数台のワイヤレスマイクやトランスミッターを同時に使用（多チャンネル同時運用）するには、電波の混信を避けるため、同一グループ内のチャンネルを使用する必要があります。

- ◆ 各周波数帯域のグループとチャンネルについては、付属の CD-ROM 「Manuals for Digital Wireless Receiver」 に収録されている周波数リストをご覧ください。
- ◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」(22 ページ) をご覧ください。

バンドブロックを選択する

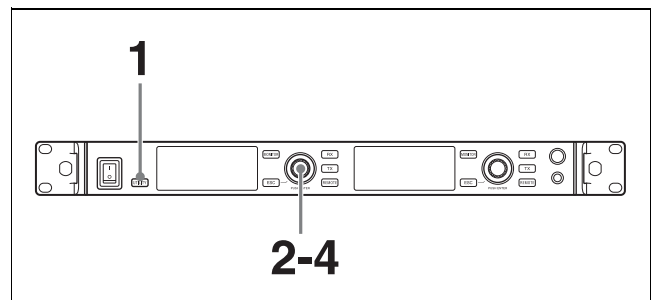
本機は、ワイドバンドで受信が可能なレシーバーです。周波数帯域 / グループ / チャンネルを設定する前に、バンドブロックの設定を行います。

以下の手順で、バンドブロック (BAND BLOCK) を設定します。

ご注意

AUTO FREQ CHANGE 機能および CHANNEL COORDINATE 機能が有効になっているときはこの機能を使用できません。

以下のイラストでは、チャンネル 1 の操作部を使って説明しています。



- 1 UTILITY ボタンを押して、UTILITY メニューを表示させる。
- 2 ジョグダイヤルを回して RF にカーソルを合わせ（カーソルが合っている項目は、文字が反転表示になります。）、ダイヤルを押す。
- 3 ジョグダイヤルを回して BAND BLOCK にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。
- 4 ジョグダイヤルを回して希望のバンドブロックを選択し、ダイヤルを押して決定する。

周波数帯域を選択する

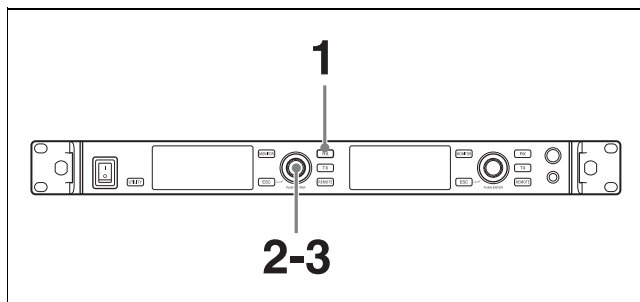
グループ / チャンネルを設定する前に、周波数帯域の設定を行います。

以下の手順で、周波数帯域 (BAND) を設定します。

ご注意

AUTO FREQ CHANGE 機能または CHANNEL COORDINATE 機能が有効になっているときはこの機能を使用できません。

以下のイラストでは、チャンネル 1 の操作部を使って説明しています。



- 1 RX ボタンを押して、RECEIVER メニューを表示させる。
- 2 ジョグダイヤルを回して BAND にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。
- 3 ジョグダイヤルを回して希望の周波数帯域を選択し、ダイヤルを押して決定する。

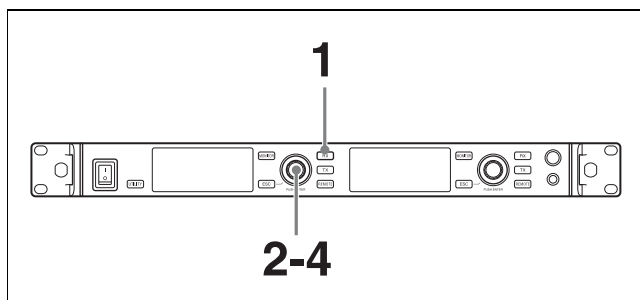
グループ / チャンネルを選択する

以下の手順で、グループ (GP) / チャンネル (CH) を設定します。

ご注意

AUTO FREQ CHANGE 機能または CHANNEL COORDINATE 機能が有効になっているときはこの機能を使用できません。

以下のイラストでは、チャンネル 1 の操作部を使って説明しています。



- 1 RX ボタンを押して、RECEIVER メニューを表示させる。
- 2 ジョグダイヤルを回して GP/CH にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。
- 3 ジョグダイヤルを回して希望のグループを選択し、ダイヤルを押して決定する。
- 4 ジョグダイヤルを回して希望のチャンネルを選択し、ダイヤルを押して決定する。

Cross Remote が動作しているときは

本機の BAND/GP/CH 設定を変更すると、本機にペアリングされているトランスミッターに変更後の CH 設定が送られます。

ご注意

- 本機で設定した受信チャンネル (CH) が、トランスミッター側でワイヤレスリモートコントロール機能との併用を禁止されているチャンネルの場合は、UNMATCH 画面が表示されます。その場合は、本機の受信チャンネルを変更してください。禁止チャンネルを使用したいときは、トランスミッターのメニューで REMOTE を OFF にして禁止チャンネルを解除し、手動でトランスミッターのチャンネルを設定してください。
- Cross Remote が動作しているときに本機の BAND BLOCK 設定を変更すると、BAND UNMATCH 画面が表示されます。

多チャンネル同時運用が考慮されていないグループについて

グループ ALL、グループ 00、TV チャンネルがグループ名になっているグループ、グループ 1.2L、1.2M、1.2H は、混信に対する考慮はされていません。

- ◆ 多チャンネル同時運用を行う場合は、付属の CD-ROM 「Manuals for Digital Wireless Receiver」に収録されている周波数リストをご覧ください。

デジタル専用チャンネルプランでの運用時について

デジタルのみの専用チャンネルプランで多チャンネル運用を行う場合は、RF インジケータが運用エリア内で常時緑色点灯になるようにしてください。受信電波の入力が小さい場合、RF インジケータは赤色点灯または消灯になります。入力が大きい場合、RF インジケータは橙色点灯になります。

必要に応じて接続アンテナのゲイン調整、アンテナアッティネーター、アンテナの向きなどの設定をしていただくことをおすすめします。

同一グループ / チャンネルの隣接使用について

仕切りや障害物がなく互いが見通せる広い場所で、2か所（2システム）以上を同一グループ、同一チャンネルで使用する場合は、混信を避けるため、目安としてシステム間の距離を 100 m 以上離してください。

アクティブチャンネルスキャン機能を使う

GP/CH 選択機能で選択されている GP（グループ）内のチャンネルリストからソニーのデジタルワイヤレスの電波を探します。

で注意

AUTO FREQ CHANGE 機能または CHANNEL COORDINATE 機能が有効になっているときはこの機能を使用できません。

検知する電波の条件

- ソニーのデジタルワイヤレス信号であること
- 本機とトランスミッターの秘匿通信設定が合っていること

- 1 RX ボタンを押して、RECEIVER メニューを表示させる。
- 2 ジョグダイヤルを回して ACTIVE CH SCAN にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。
「START SCAN?」とメッセージが表示されます。
- 3 ジョグダイヤルを回して YES を選択し、ダイヤルを押す。
スキャンが始まります。ソニーのデジタルワイヤレスの電波を検出したら、周波数を表示してスキャンを停止します。
NO を選択すると、スキャン機能を終了します。
- 4 音声を確認し、検出された電波を受信するときは、ジョグダイヤルを回して SET を選択し、ダイヤルを押す。
別のチャンネルを探す場合は、ジョグダイヤルを回して CONTINUE を選択し、ダイヤルを押してください。

で注意

グループ内の周波数を 2 周探してもソニーのデジタルワイヤレスの電波が見つからなかった場合は、スキャンを終了します。

クリアチャンネルスキャン機能を使う

電波がなく、他の無線機器が使用していないチャンネルを探す機能です。この機能を使うとワイヤレスマイクを使うことができる空きチャンネルを簡単に探すことができ、混信を避けた設定が可能です。

GP/CH 選択機能で選択されている GP（グループ）に登録されているチャンネルの中から、妨害波が少ない順に空きチャンネルをリスト表示します。

で注意

AUTO FREQ CHANGE 機能または CHANNEL COORDINATE 機能が有効になっているときはこの機能を使用できません。

- 1 RX ボタンを押して、RECEIVER メニューを表示させる。
- 2 ジョグダイヤルを回して CLEAR CH SCAN にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。
「START SCAN?」とメッセージが表示されます。
- 3 ジョグダイヤルを回して YES を選択し、ダイヤルを押す。
スキャンが始まります。選択されている GP（グループ）内で空きチャンネルを検索し、RF 入力レベルの低い順に空きチャンネルをリスト表示します。
- 4 ジョグダイヤルを回して使用したい空きチャンネルを選択し、ダイヤルを押す。

Cross Remote が動作しているときは

上記の手順 4 でジョグダイヤルを押すと、選択した空きチャンネルを本機にペアリングされているトランスミッターに設定するかどうかの確認画面が表示されます。ジョグダイヤルを回して OK を選択し、ダイヤルを押すと、選択した空きチャンネルがトランスミッターに反映されます。

で注意

- グループ内の周波数を 2 周探しても電波のないチャンネルが見つからなかった場合は、スキャンを終了します。
- 本機で設定した受信チャンネル（CH）が、トランスミッター側でワイヤレスリモートコントロール機能との併用を禁止されているチャンネルの場合は、UNMATCH 画面が表示されます。
その場合は、本機の受信チャンネルを変更してください。
禁止チャンネルを使用したいときは、トランスミッターのメニューで REMOTE を OFF にして禁止チャンネルを解除し、手動でトランスミッターのチャンネルを設定してください。

スペクトラムアナライザー機能を使う

BAND 機能で選択している周波数帯域の範囲を 125 kHz 刻みでスキャンして、各チャンネルの妨害波をグラフで表示します。

- 1 RX ボタンを押して、RECEIVER メニューを表示させる。
- 2 ジョグダイヤルを回して SPECTRUM ANALYZER にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。
「START SCAN?」とメッセージが表示されます。
- 3 ジョグダイヤルを回して YES を選択し、ダイヤルを押す。
スキャンが始まります。選択されている BAND（周波数帯域）内を検索し、妨害波をグラフ表示します。

妨害波のない周波数を割り当てるには

ジョグダイヤルを回して使用したい周波数を選択してダイヤルを押すと、その周波数に設定されます。送信機とペアリングされている場合は、送信機にも同じ周波数設定が反映されます。

複数のレシーバーのチャンネルをまとめて設定する

1 台の DWR-R03D で空きチャンネルを検索し、複数台の DWR-R03D にチャンネルを割り当てることができる機能です。1 台のみでこの機能を使用して、チューナー 1、チューナー 2 の両方のチャンネル割り当てを行うこともできます。

ご注意

- OUTPUT SWAP 機能または AUTO FREQ CHANGE 機能が有効になっているときは、この機能を使用できません。
- 以下の条件がすべて揃っている DWR-R03D がチャンネル割り当ての対象です。
 - 空きチャンネルを検索する DWR-R03D と、DWX 機器間通信のためのネットワーク接続がされている。
 - 空きチャンネルを検索する DWR-R03D と同じネットワークに接続されている。
 - 空きチャンネルを検索する DWR-R03D と、BAND の設定が同じ。
 - OUTPUT SWAP 機能および AUTO FREQ CHANGE 機能が OFF に設定されている。
- この機能を使う場合は、ネットワーク接続するコンピューター（Wireless Studio をインストール）およびミキサーを合計 3 台までとしてください。

空きチャンネルを検索する

- 1 UTILITY ボタンを押して、UTILITY メニューを表示させる。

- 2 ジョグダイヤルを回して RF にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。
- 3 ジョグダイヤルを回して CHANNEL COORDINATE にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。
- 4 ジョグダイヤルを回して START にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。
「START SCAN?」とメッセージが表示されます。
- 5 ジョグダイヤルを回して YES を選択し、ダイヤルを押す。
ペアリングされている送信機が自動的にスリープになり、スキャンが始まります。スキャン中はチューナー 1 のディスプレイには周波数などの情報が、チューナー 2 のディスプレイにはグラフが、それぞれ表示されます。
スキャンが終わると送信機がアクティブになり、チャンネル割り当てを手動で行うか自動で行うかを選択できます。

自動でチャンネルを割り当てる

- 1 ジョグダイヤルを回して AUTO にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。
検索した BAND 内のグループ名とそれぞれの空きチャンネル数が表示されます。
- 2 ジョグダイヤルを回して使用したいグループを選択し、ダイヤルを押す。
IP アドレスの若い DWR-R03D からチューナー 1、チューナー 2 の順にチャンネルが割り当てられます。

ご注意

チューナーの数に対して、選択したグループの空きチャンネルが不足していた場合は「NOT ENOUGH CHANNELS AVAILABLE! CONTINUE OK?」とメッセージが表示されます。YES を選択すると、チャンネルの割り当てが済んだチューナーはそのまま有効、割り当てられなかったレシーバーは既存の設定のままで終了します。NO を選択すると、チャンネルの割り当てを破棄して RF サブメニューに戻ります。

自動でチャンネルを割り当てる際の優先順位について

UTILITY メニュー > RF > CHANNEL COORDINATE > SCAN RESULTS ORDER の設定により、自動でチャンネルを割り当てる際の優先順位を変更できます。
工場出荷時は妨害波が少ない順（INCREASING INTERFERENCE）に設定されています。必要に応じて周波数が低い順（INCREASING FREQUENCY）に変更してください。

手動でチャンネルを割り当てる

- 1 ジョグダイヤルを回して MANUAL にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。
検索した BAND 内のグループ名とそれぞれの空きチャンネル数が表示されます。
 - 2 ジョグダイヤルを回して使用したいグループを選択し、ダイヤルを押す。
選択したグループのチャンネルの情報が表示されます。
 - 3 ジョグダイヤルを回してチャンネルを選択し、ダイヤルを押す。
各 DWR-R03D に「RECEIVE CHANNEL?」と表示されます。
- ご注意**
- 操作している DWR-R03D には「RECEIVE CHANNEL?」は表示されませんが、手順 4 の操作によりチャンネルを割り当てることはできます。
- 4 選択したチャンネルを割り当てたいチューナーで YES を選択し、ダイヤルを押す。
 - 5 チャンネルを割り当てたいチューナーの数だけ手順 3、4 を繰り返す。

ご注意

スキャンした DWR-R03D および割り当て側のチューナーの操作を一定時間行わないと、チャンネル割り当て受信待ち状態が解除されます。

自動的に安全な周波数に切り換える

ホストとなる DWR-R03D で周波数スキャンを行い、安全な周波数リストを常時保持します。クライアントとなるほかの DWR-R03D の電波状況が悪化した際、安全な周波数リストにある電波状況が良好な周波数に自動的に変更します。

ご注意

- ホストとなるのは周波数をスキャンする DWR-R03D のチューナー 1 です。チューナー 2 はクライアントになり、周波数自動切り換えの対象です。
- この機能を使う場合は、「多チャンネル同時運用が考慮されていないグループについて」(14 ページ)を参照し、あらかじめ多チャンネル同時運用が考慮されたグループを選択してください。
- OUTPUT SWAP 機能または CHANNEL COORDINATE 機能が有効になっているときは、この機能を使用できません。

- 以下の条件がすべて揃っている DWR-R03D が周波数自動切り換え対象です。
 - ホストとなる DWR-R03D と、DWX 機器間通信のためのネットワーク接続がされている。
 - ホストとなる DWR-R03D と同じネットワークに接続されている。
 - ホストとなる DWR-R03D と、グループの設定が同じ。
 - OUTPUT SWAP 機能が OFF に設定されている。
 - AUTO FREQ CHANGE が CLIENT に設定されている。
 - 送信機とペアリングされて Cross Remote で通信できる状態になっている。
- 電波状況によっては、周波数が正しく切り替わらない場合があります。
- 周波数が切り替わる際、通信状況によって多少の音切れが発生します。
- クライアントが周波数を自動的に切り換えようとした際、割り当て可能な周波数がなく、周波数を切り換えられなかった場合は「CLIENT」アイコンが点滅します。
- クライアントとペアリングされている送信機から電波が送信されていない（電源オフやスリープ中など）場合、その送信機が使用している周波数をホストが他のクライアントに割り当てることがあります。
- この機能を使う場合は、ネットワーク接続するコンピューター（Wireless Studio をインストール）およびミキサーを合計 3 台までとしてください。

クライアントの操作

- 1 UTILITY ボタンを押して、UTILITY メニューを表示させる。
- 2 ジョグダイヤルを回して REDUNDANCY にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。
- 3 ジョグダイヤルを回して AUTO FREQ CHANGE にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。
- 4 ジョグダイヤルを回して CLIENT にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。

「CLIENT」アイコンが点滅します。

ホストを発見し、空きチャンネルを割り当てる準備ができているときは「CLIENT」アイコンが点灯します。ホストに空きチャンネルがないときや、ホストが見つからないときは「CLIENT」アイコンが点滅します。

ホストの操作

ホストで周波数自動切り換えを有効にすると、すぐに周波数のスキャンが始まります。あらかじめ、対象とするクライアントの周波数自動切り換えを有効にした上で、ホストの設定を行ってください。

- 1 UTILITY ボタンを押して、UTILITY メニューを表示させる。

2 ジョグダイヤルを回して REDUNDANCY にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。

3 ジョグダイヤルを回して AUTO FREQ CHANGE にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。

4 ジョグダイヤルを回して HOST にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。

「START SCAN?」とメッセージが表示されます。

5 ジョグダイヤルを回して YES を選択し、ダイヤルを押す。

周波数自動切り換えが有効になります。

秘匿通信機能を使う

ソニー製デジタルワイヤレストランスミッターで暗号化された信号を受信します。秘匿通信機能を使うと他者からの盗聴を防ぐことができます。

秘匿通信機能を使用する場合には、次のいずれかの方式を選択します。

暗号鍵方式 (SECURE KEY/AES256) : トランスミッターで自動的に作られる暗号鍵をトランスミッターとレシーバーの双方で使用し、1対1での秘匿通信を行う方式。SECURE KEY は、第一世代、第二世代の DWX シリーズと互換性のある暗号鍵方式です。

AES256 は、より強固なセキュリティレベルに対応した AES256 bit での秘匿通信機能です。

パスワード方式 (PASSWORD) : ユーザーの決めた 8 文字までのパスワードを、複数台のトランスミッターとレシーバーに設定できる方式。グループでの秘匿通信が可能です。

ご注意

- トランスミッターとレシーバー（本機）の秘匿通信機能設定は同じ方式に設定してください。
- 暗号鍵方式を使う場合は、トランスミッターとレシーバーのペアリングを行ってください。

暗号鍵方式を使う (SECURE KEY/AES256)

トランスミッターとレシーバー（本機）の 1対1 の秘匿通信を行うときに設定します。

外部から読むことのできない暗号鍵をトランスミッター内で自動生成し、ワイヤレスリモートコントロール機能を使用してレシーバーに転送することで秘匿通信を行います。トランスミッターとレシーバー（本機）の暗号鍵は、暗号鍵の転送時に毎回新たに自動生成されるので強固な秘話伝送が可能です。

トランスミッターとレシーバー（本機）の暗号鍵は電源 OFF 時にも保持されます。一度電源を OFF にしてから運用を再開する場合でも、前回と同じ秘匿通信が可能です。

1 トランスミッターの準備

暗号鍵の転送を行うトランスミッターの秘匿通信設定を SECURE KEY または AES256 にします。

- ◆ トランスミッターの操作方法について詳しくは、トランスミッターに付属の取扱説明書をご覧ください。

2 レシーバー（本機）の準備

- ① RECEIVER メニュー内の ENCRYPTION にカーソルを合わせ、ジョグダイヤルを押す。
- ② ジョグダイヤルを回して SECURE KEY または AES256 を選択し、ダイヤルを押す。

ご注意

トランスミッターが AES256 に対応していない場合は、SECURE KEY を選択してください。

◆ トランスミッターの秘匿通信機能について詳しくは、トランスミッターに付属の取扱説明書をご覧ください。

3 暗号鍵の交換

本機とペアリングのできているトランスミッターを探します。

トランスミッターを発見すると暗号鍵が交換され、暗号鍵方式の秘匿通信が開始されます。

ご注意

RF REMOTE 機能が OFF の場合は、暗号鍵を交換できません。

5 トランスミッターの秘匿通信機能設定を PASSWORD にする。

6 トランスミッターに、本機と同じ最大 8 文字のパスワードを設定する。

◆ トランスミッターの操作方法について詳しくは、トランスミッターに付属の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

パスワードは定期的な更新をおすすめします。

パスワード方式を使う (PASSWORD)

複数のトランスミッターと複数のレシーバー（本機）の組合せで秘匿通信を行うときに設定します。

ユーザーの決めた同一のパスワードがトランスミッターとレシーバー（本機）に設定してあれば、音声の復調が可能です。複数のトランスミッターと複数のレシーバー（本機）をグループとして運用したり、1 台のトランスミッターを複数のレシーバー（本機）で同時に受信するときに便利です。

1 本機の RECEIVER メニューで、ジョグダイヤルを回して ENCRYPTION にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。

2 ジョグダイヤルを回して PASSWORD を選択し、ダイヤルを押す。

3 本機で最大 8 文字のパスワードを入力する。

ジョグダイヤルを回して入力したい文字にカーソルを合わせ、ダイヤルを押して 1 文字ずつ入力します。

パスワードの最後の文字を消すには

ジョグダイヤルを回して BS にカーソルを合わせ、ダイヤルを押します。

パスワードの途中の文字を削除したり、途中で文字を挿入したりすることはできません。

パスワードの入力を中止するには

ジョグダイヤルを回して CANCEL にカーソルを合わせ、ダイヤルを押します。

4 パスワードの入力が終わったら、ジョグダイヤルを回して OK にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。

オーディオコーデックモードを設定する

本機では、4つのオーディオコーデックモードを搭載しています。使用状況に応じて切り換えることができます。

MODE1：第一世代の DWX シリーズと互換性のあるオーディオコーデックモードです。

MODE2：伝送の安定性と高音質を確保しつつ、遅延時間を優先したオーディオコーデックモードです。

MODE3：パルス性妨害波によるノイズを抑制する信号処理を追加したオーディオコーデックモードです。

MODE4：伝送の安定性と低遅延を確保しつつ原音をより忠実に再現する、音質を優先したオーディオコーデックモードです。

で注意

各モードを使用して送受信を行った際の音声遅延時間は、トランスミッターの使用環境により異なります。

◆ 詳しくは、「オーディオコーデックモードの設定 (CODEC MODE)」(23 ページ) をご覧ください。

- 1 RX ボタンを押して、RECEIVER メニューを表示させる。
- 2 ジョグダイヤルを回して CODEC MODE にカーソルを合わせ、ダイヤルを押す。
- 3 ジョグダイヤルを回して希望のオーディオコーデックモードを選択し、ダイヤルを押して決定する。

このとき、本機とペアリング済みのトランスミッターがある場合は、トランスミッター側のオーディオコーデックモードも同時に切り替わります。

メニューの表示と詳細設定

メニューの構成と階層

メニューの構成

本機のメニューには次の4種類があります。

RECEIVER メニュー

本機 (チューナー 1 またはチューナー 2) を設定する機能が含まれるメニューです。

TRANSMITTER メニュー

本機 (チューナー 1 またはチューナー 2) と通信しているトランスミッターの現在の設定が確認できます。

RF REMOTE メニュー

本機 (チューナー 1 またはチューナー 2) とトランスミッターとのペアリングと、ワイヤレスリモートコントロール機能の基本設定を行うメニューです。

UTILITY メニュー

入力信号やネットワーク機能、有機 EL ディスプレイの設定に関する機能などが含まれるメニューです。ここでの設定は、本機のチューナー 1 とチューナー 2 に共通です。

メニューの階層

RECEIVER メニュー

- BAND
- GP/CH
- ACTIVE CH SCAN
- CLEAR CH SCAN
- SPECTRUM ANALYZER
- ENCRYPTION
- CODEC MODE
- MAIN OUT LEVEL
- GROUND LIFT
- AF OUTPUT
- SEARCH TX
- CHANNEL LABEL

TRANSMITTER メニュー

- NAME
- POWER SAVE
- RF POWER
- INPUT LEVEL
- ATT
- LCF
- +48V
- TIME
- INTERNAL SG
- LOCK
- PWR SW STATE
- BATT REMAIN

RF REMOTE メニュー

- RF REMOTE
- PAIRING
- MODE

UTILITY メニュー

- RF
 - DIVERSITY
 - BAND BLOCK
 - ANT ATT a
 - ANT ATT b
 - ANT ATT c
 - ANT ATT d
 - ANT DC OUT
 - CHANNEL COORDINATE
- AUDIO
 - MONITOR MODE
 - SYNC SOURCE
 - DELAY ADJUST
 - AF PEAK HOLD
 - SUB OUT SEL
- REDUNDANCY
 - AUTO FREQ CHANGE
 - OUTPUT SWAP

NETWORK

- RECEIVER NAME
- NETWORK MODE
- DANTE ID
- RECEIVER IP
- DANTE MAIN IP
- DANTE SUB IP

ALERT FUNCTION

- RF LOW
- RF OVER
- QL LOW
- AF PEAK
- TX BATTERY LOW
- ENCRYPTION UNMATCH
- EXTERNAL WORD SYNC UNLOCK
- CODEC MODE UNMATCH

QL ALERT SENS

DISPLAY

- BRIGHTNESS
- DIMMER MODE

SETTING LOCK

USER MEMORY

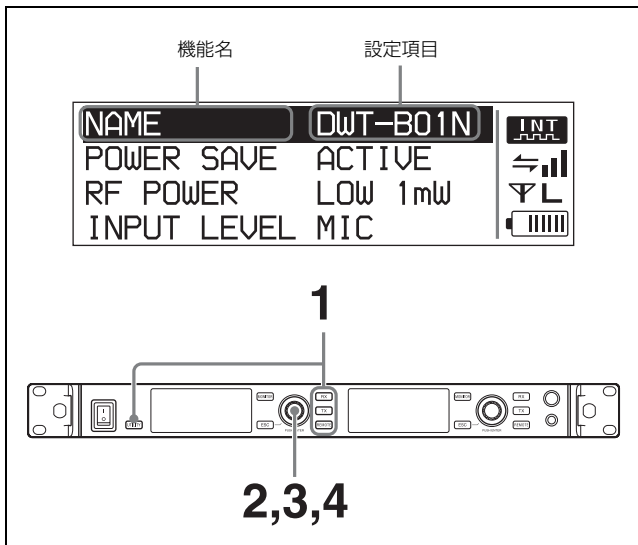
- LOAD
- SAVE

FACTORY PRESET

VERSION

メニューの基本操作

以下のイラストでは、チャンネル1の操作部を使って説明しています。

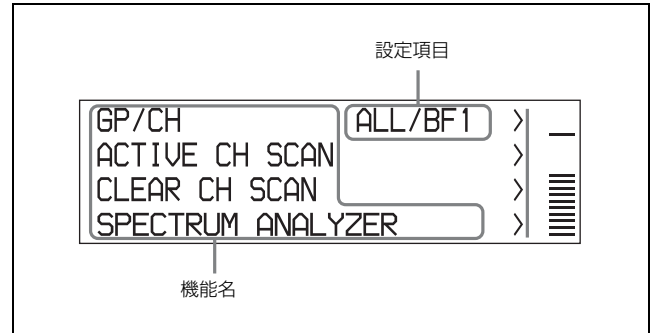


- 1 メニュー選択ボタン (RX、TX、REMOTE または UTILITY ボタン) のいずれかを押して、設定または変更したいメニューを選ぶ。
- 2 ジョグダイヤルを回して設定したい機能名を選択し、ダイヤルを押す。
 - ◆ 詳しくは、「メニューの構成と階層」(20 ページ) をご覧ください。
- 3 ジョグダイヤルを回して設定を変更する。
- 4 ジョグダイヤルを押して変更内容を確定させる。

RECEIVER (レシーバー) メニュー

- ◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」(22 ページ) をご覧ください。

RECEIVER メニューは、本機の主機能であるデジタルワイヤレスレシーバーの機能を設定するメニューです。



ここでは、各機能と変更項目を説明します。
下線表記は工場出荷時の設定です。

周波数帯域の選択 (BAND)

受信する周波数帯域を選択します。工場出荷時の設定は、「対応する周波数帯とチャンネル間隔」(41 ページ) をご覧ください。

グループ / チャンネルの選択 (GP/CH)

受信するグループとチャンネルを設定します。工場出荷時の設定は、「対応する周波数帯とチャンネル間隔」(41 ページ) をご覧ください。

- ◆ 詳しくは、「グループ / チャンネルを選択する」(14 ページ) をご覧ください。

アクティブチャンネルスキャン機能 (ACTIVE CH SCAN)

アクティブチャンネルスキャンを実行します。

- ◆ 詳しくは、「アクティブチャンネルスキャン機能を使う」(15 ページ) をご覧ください。

クリアチャンネルスキャン機能 (CLEAR CH SCAN)

クリアチャンネルスキャンを実行します。

- ◆ 詳しくは、「クリアチャンネルスキャン機能を使う」(15 ページ) をご覧ください。

スペクトラムアナライザー機能

(SPECTRUM ANALYZER)

各チャンネルの妨害波をグラフで表示します。

- ◆ 詳しくは、「スペクトラムアナライザー機能を使う」(16 ページ)をご覧ください。

秘匿通信機能 (ENCRYPTION)

秘匿通信機能を設定します。

SECURE KEY : 第一世代、第二世代の DWX シリーズと互換性のある暗号鍵方式で設定する。

AES256 : AES256 暗号鍵方式で設定する。

PASSWORD : パスワード方式で設定する。

OFF : 秘匿通信機能を使わない。

- ◆ 詳しくは、「秘匿通信機能を使う」(18 ページ)をご覧ください。

オーディオコーデックモードの設定

(CODEC MODE)

オーディオコーデックモードを設定します。

ペアリング済みのトランスミッターがある場合は、トランスミッター側のオーディオコーデックモードも同時に切り替わります。

MODE1 : 第一世代の DWX シリーズと互換性のあるオーディオコーデックモードです。

MODE2 : 伝送の安定性と高音質を確保しつつ、遅延時間を優先したオーディオコーデックモードです。

MODE3 : パルス性妨害波によるノイズを抑制する信号処理を追加したオーディオコーデックモードです。

MODE4 : 伝送の安定性と低遅延を確保しつつ原音をより忠実に再現する、音質を優先したオーディオコーデックモードです。

送受信時の音声遅延時間

それぞれのモードの送信機側、受信機側を合わせた音声遅延時間は以下のとおりです。

アナログ出力

	DWT-B03R 使用時	その他の DWX シリーズのトランスミッター使用時
MODE1	2.7 msec	3.4 msec
MODE2	1.2 msec	1.5 msec
MODE3	3.7 msec	4.0 msec
MODE4	1.3 msec	—

デジタル出力

	DWT-B03R 使用時	その他の DWX シリーズのトランスミッター使用時
MODE1	2.7 msec	3.4 msec
MODE2	2.2 msec	2.5 msec
MODE3	4.6 msec	4.9 msec
MODE4	2.3 msec	—

- ◆ 詳しくは、「オーディオコーデックモードを設定する」(20 ページ)をご覧ください。

アナログ音声出力レベルの設定 (MAIN OUT LEVEL)

MAIN OUT 1/2 端子から出力する音声信号のレベルを設定します。1 dB 刻みで調整できます。

MIC : マイクロホンレベル (基準レベル : - 58 dBu)

LINE : ラインレベル (基準レベル : - 12 dBu)

グラウンドリフトの設定 (GROUND LIFT)

LIFT を選択すると、MAIN OUT の 1 ピン (GROUND) をシャーシグラウンドから浮かすことによって、グラウンドループによるバズやハムなどのノイズを回避できます。

GROUND : MAIN OUT の 1 ピン (GROUND) とシャーシグラウンドを接続します。

LIFT : MAIN OUT の 1 ピン (GROUND) とシャーシグラウンドを切断します。

ご注意

バズやハムなどのノイズがある場合だけ LIFT を選択してください。放射する外来ノイズの影響を受けやすくなることがあります。

オーディオ出力の設定 (AF OUTPUT)

レシーバーチャンネルのオーディオ出力の制御 (MUTING/UNMUTING) を行います。制御の対象は、ANALOG OUT 1/2 端子および DIGITAL OUT 1/2/3/4 端子です。ヘッドホンモニターは制御の対象外です。

UNMUTING : レシーバーチャンネルのオーディオ出力をミュートしませんが。

MUTING : レシーバーチャンネルのオーディオ出力をミュートします。ミュート中は、トップ画面のトランスミッター名を表示する部分に「MUTING」と「トランスミッター名」が交互に表示されます。

送信機探索機能 (SEARCH TX)

本機と同じ周波数で通信しているトランスミッターを素早く見つけるための機能です。

トランスミッターが見つかったら、トランスミッターのディスプレイが点滅するなどの反応があります。

ご注意

トランスミッターが受信機探索機能に対応していない場合は、トランスミッターは反応しません。

- ◆ トランスミッターの動作について詳しくは、本機と組み合わせて使用するトランスミッターに付属の取扱説明書をご覧ください。

送信機を探索するには

この項目を選択して「SEND SIGNAL TO SEARCH TX?」と表示されたら、「YES」を選択して確定します。

ラベル機能 (CHANNEL LABEL)

レシーバーのチャンネルごとに16文字以内で名称を付けることができます。

すでに名前を付けてあるときは、この機能を選択すると設定された名前を表示します。

また、トランスミッターが電源OFFの場合およびサービスエリア外にいる場合は、本機の受信チャンネル情報表示部の3行目に、このラベルと「NO DATA」が交互に表示されます。

名称を付けるには

直接入力するか、トランスミッターの名称をコピーします。入力のしかたは、「パスワード方式を使う (PASSWORD)」(19ページ)と同様です。

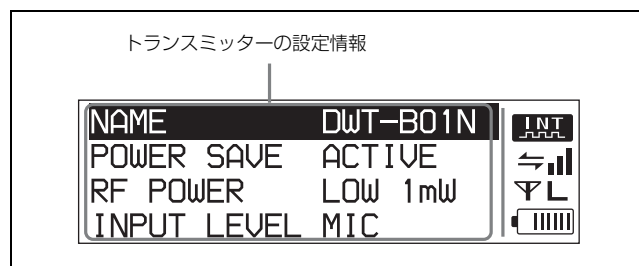
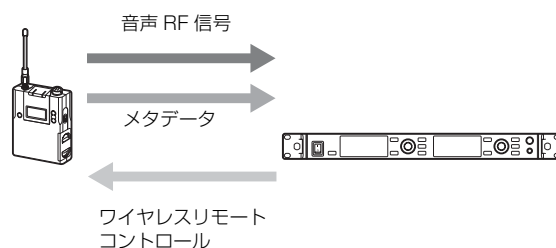
トランスミッターの名称をコピーするには、トランスミッターからメタデータを受信している間に「COPY TX」を選択して確定します。

TRANSMITTER (トランスミッター仮想) メニュー

トランスミッター仮想メニューでは、トランスミッターから受信したメタデータをディスプレイに表示することで、トランスミッターの状態を確認することができます。

- ◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」(22ページ)をご覧ください。
- ◆ トランスミッターの設定情報の変更方法については詳しくは、「本機でトランスミッターの設定を変更する」(32ページ)をご覧ください。

ソニーのデジタルワイヤレストランスミッターは、デジタル音声データだけでなくトランスミッター本体の設定情報もメタデータとして送信します。



ご注意

トランスミッターが電源OFFまたはサービスエリア外にいる場合は、設定項目表示のかわりに「NO DATA」と表示されます。またトランスミッターに機能が搭載されていない場合は「NO FUNCTION」と表示されます。

ここでは、表示される設定情報を説明します。

トランスミッター名称の表示 (NAME)

トランスミッターの名称の設定を表示します。

省電力設定の表示 (POWER SAVE)

トランスミッターの省電力設定を表示します。

送信電力設定の表示 (RF POWER)

受信しているトランスミッターの送信電力設定を表示します。

オーディオ入力レベルの表示 (INPUT LEVEL)

トランスミッターの入力レベル設定を表示します。

アッテネーターの表示 (ATT)

トランスミッターのアッテネーター設定を表示します。

ローカットフィルター設定の表示 (LCF)

トランスミッターのローカットフィルター設定を表示します。

+48 V 電源設定の表示 (+48V)

トランスミッターの +48 V 電源設定を表示します。

累積使用時間の表示 (TIME)

トランスミッターの累積使用時間を表示します。

内蔵信号発生 of 表示 (INTERNAL SG)

トランスミッターの内蔵信号を発生させているかを表示します。

ロック設定の表示 (LOCK)

トランスミッターのロック機能の設定を表示します。

POWER スイッチの状態 (PWR SW STATE)

トランスミッターの POWER スイッチの状態を表示します。

電池残量の表示方式 (BATTERY REMAIN)

トランスミッターの電池残量の表示方式を表示します。

RF REMOTE メニュー

- ◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」(22 ページ) をご覧ください。

本機は、TRANSMITTER (トランスミッター仮想) メニューでトランスミッターの設定 (ローカットフィルターやアッテネーター操作、省電力設定など) をワイヤレス制御できるワイヤレスリモートコントロール機能を搭載しています。これにより、現場での運用や管理がより簡単に行えます。

ワイヤレスリモートコントロールには、デジタルワイヤレスオーディオの無線伝送帯域に影響を与えない 2.4 GHz 帯 IEEE802.15.4 方式を採用しています。

この機能は、RF REMOTE メニューで制御したいトランスミッターと本機をペアリングすることにより使用可能になります。

ご注意

トランスミッターのソフトウェアバージョンが本機との組み合わせに適合していない場合、ワイヤレスリモートコントロール機能が動作しないことがあります。正しく動作させるにはソフトウェアをアップデートする必要があります。なお、ソフトウェアのアップデートについては、ソニーのサービス窓口へお問い合わせください。

- ◆ 本機との組み合わせに適合しているトランスミッターのソフトウェアバージョンについて詳しくは、「送信機のソフトウェアバージョンについて」(38 ページ) をご覧ください。

Cross Remote を使う (RF REMOTE)

本機と本機と組み合わせて使うトランスミッターとの間で、ワイヤレスリモートコントロール機能を使用する場合に設定が必要な項目です。

OFF : ワイヤレスリモートコントロール機能を停止する。
ON : すでにペアリングされているトランスミッターとの間でワイヤレスリモートコントロール機能を使用する。

ペアリングを行う (PAIRING)

ペアリングとは、ワイヤレスリモートコントロール機能で操作を行いたいトランスミッターと本機の対 (ペア) を作ることです。

以下の手順で設定します。

- 1 RF REMOTE メニューで、ジョグダイヤルを回して PAIRING を選択し、ダイヤルを押す。

「START PAIRING?」とメッセージが表示されます。

2 制御したいトランスミッターをペアリングモードに設定する。

- ◆ トランスミッターの操作方法について詳しくは、トランスミッターに付属の取扱説明書をご覧ください。

3 ジョグダイヤルを回して YES を選択し、ダイヤルを押す。

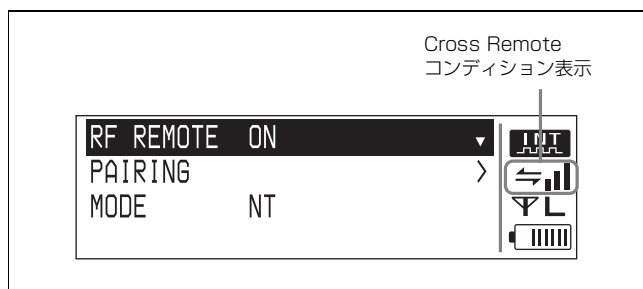
トランスミッターの検索を開始し、ディスプレイにペアリング可能なトランスミッター名が表示されます。

検索中に本機の操作ボタンを押すと、ペアリングモードはキャンセルされます。

4 ジョグダイヤルを回して、表示されたトランスミッターの名前の中からペアリングしたいトランスミッターを選択し、ダイヤルを押して決定する。

選択したトランスミッターとの通信が始まり、ディスプレイにワイヤレスリモートコントロールコンディション表示が表示されます。

コンディションレベル () が上がり、リモートコントロールができるようになります。








ご注意

本機で設定した受信チャンネル (CH) が、トランスミッター側でワイヤレスリモートコントロール機能との併用を禁止されているチャンネルの場合は、UNMATCH 画面が表示されます。

その場合は、本機の受信チャンネルを変更してください。禁止チャンネルを使用したいときは、トランスミッターのメニューで REMOTE を OFF にして禁止チャンネルを解除し、手動でトランスミッターのチャンネルを設定してください。

Cross Remote コンディション表示について

ワイヤレスリモートコントロールの電波状態を 4 段階で表示します。

-  : 通信状況が良好
-  : 通信状況がやや良好
-  : 通信状況がやや良くない
-  : 通信状況が良くない
-  : ペアリングされたトランスミッターと通信できない

RF REMOTE メニュー (25 ページ) で RF REMOTE を OFF にしている場合には、このアイコンは表示されません。

前回のペアリング設定で Cross Remote を使うには

トランスミッターの電源を ON にしたときに、本機のトップ画面にワイヤレスリモートコントロールコンディションアイコンが表示されていれば、そのまま使用できます。アイコンが表示されていない場合には、トランスミッターまたは本機の RF REMOTE 設定が ON になっているか確認してください。

ご注意

- RF REMOTE メニューの RF REMOTE を OFF から ON にしても、前回ペアリングされていたトランスミッター以外との通信はできません。別のトランスミッターとワイヤレスリモートコントロールを使うには、あらかじめそのトランスミッターとペアリング設定してください。
- 複数のトランスミッターとペアリングすることはできません。
- ST リモートシステムでペアリングを行った場合でも NT リモートシステムでワイヤレスリモートコントロールを使うには、再ペアリングが必要になります。

ペアリングが完了しているときに本機で設定できるトランスミッターの機能

- 周波数帯域 / グループ / チャンネルの選択
- トランスミッター名称の設定
- 省電力設定
- RF 送信電力設定
- オーディオ入力レベル設定
- アッテネーター設定
- ローカットフィルター設定
- + 48V 設定
- トランスミッターの累積使用時間のリセット
- オーディオコーデックモード設定
- 内蔵信号設定
- ロック設定
- 電池残量の表示方式の設定

- ◆ トランスミッターの設定方法について詳しくは、「本機でトランスミッターの設定を変更する」(32 ページ) をご覧ください。

Cross Remote を停止するには

RF REMOTE メニューで RF REMOTE を選択し、OFF にします。

Cross Remote に関するご注意

本機のワイヤレスリモートコントロールは 2.4 GHz 帯を使用しているため、他の機器からの電波干渉を受ける可能性があります。

- ペアリングが完了しない場合（「PAIRING FAIL」と表示された場合）は、再度ペアリングを行ってください。一定時間内にトランスミッターとレシーバーの通信が完了しなかったことが考えられます。近くで他のレシーバーがペアリングを行っている場合、完了しづらくなることがあります。
- リモートコントロールがつながりにくい場合は、RF REMOTE 機能をいったん OFF にしてから ON にし、再度トランスミッターと接続し直すことにより改善（干渉の少ないチャンネルに移動）する場合があります。

リモートのモードを表示する (MODE)

本機が ST リモート、NT リモートどちらのモードで動作しているのかを表示します。(表示のみ)

NT : RMU-01 を認識して NT リモートで動作しています。

ご注意

RMU-01 を認識させるには、本機と RMU-01 を同じネットワークに接続してください。

ST : ST リモートで動作しています。

SEARCH : リモートのモード状態をサーチしています。

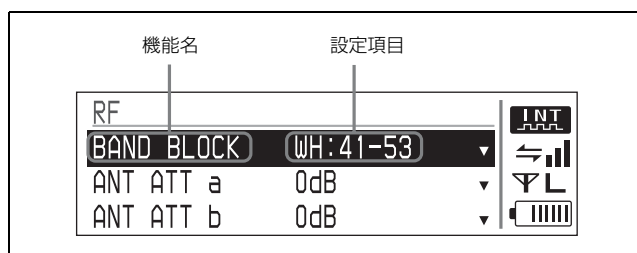
UTILITY メニュー

- ◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」(22 ページ) をご覧ください。

UTILITY メニューは、ディスプレイに関する設定などの本機の基本設定に関わる項目が含まれているメニューです。

ここでは、各機能と変更項目を説明します。

下線表記は工場出荷時の設定です。



ご注意

UTILITY メニューのすべての機能はレシーバーチャンネル 1 の操作部のみを使って設定しますが、両方のレシーバーチャンネルで有効です。

受信に関する機能 (RF サブメニュー)

ダイバーシティ受信モードの設定 (DIVERSITY)

本機を「2 系統のアンテナ入力×2 チャンネルのレシーバー」として使用するか「4 系統のアンテナ入力×1 チャンネルのレシーバー」として使用するかを設定します。

2-ANTENNA/4-ANTENNA

ご注意

- 本機を「4 系統のアンテナ入力×1 チャンネルのレシーバー」として使用する場合、レシーバーチャンネル 2 の機能は無効になります。
- OUTPUT SWAP 機能、AUTO FREQ CHANGE 機能および CHANNEL COORDINATE 機能が有効になっているときはこの機能を使用できません。

バンドブロックの設定 (BAND BLOCK)

対応するトランスミッターの周波数帯に合わせて設定します。工場出荷時の設定は、「対応する周波数帯とチャンネル間隔」(41 ページ) をご覧ください。

アンテナ入力のアッテネーター設定 (ANT

ATT a/b/c/d)

アンテナ入力のアッテネーターを設定します。ANTENNA a/b/c/d IN 端子に対して個別に設定できます。

0dB/3dB/6dB/9dB/12dB

ご注意

- 本機をカスケード接続する場合、アンテナを直接接続していない DWR-R03D は、ANT ATT a/b を「0dB」にしてください。
- ANT ATT c/d が有効になるのは、DIVERSITY で本機を「4系統のアンテナ入力×1チャンネルのレシーバー」として使用する設定にした場合のみです。

アンテナへの DC 電源供給設定 (ANT DC

OUT)

ANTENNA a/b/c/d IN 端子に接続されたアンテナへの DC 電源供給を設定します。ここでの設定は、ANTENNA IN a/b/c/d 端子すべてに共通です。

OFF/9V/12V

ご注意

- 本機をカスケード接続する場合、アンテナを直接接続していない DWR-R03D は、ANT DC OUT を「OFF」にしてください。
- WB-01 などのアンテナブースターを使用する場合、電源が供給されないとブースターは動作を停止し、損失が大きくなります。

複数レシーバーの周波数一括調整 (CHANNEL

COORDINATE)

本機からほかの DWR-R03D のチャンネルをまとめて設定できる機能です。

- ◆ 詳しくは、「複数のレシーバーのチャンネルをまとめて設定する」(16 ページ) ご覧ください。

音声に関する機能 (AUDIO サブメ

ニュー)

モニターモードの設定 (MONITOR MODE)

音声をモニタリングするときの出力方法を選択します。本機の MONITOR ボタンで選択したレシーバーチャンネルの音声に加え、Dante オーディオネットワークで接続した別の DWR-R03D の音声もモニタリングできます。

1/2：本機のレシーバーチャンネルの音声をモニタリングできます。ヘッドホンの L チャンネルからチャンネル 1 の音声が、R チャンネルからチャンネル 2 の音声が出力されます。

1+2：本機のレシーバーチャンネルの音声をモニタリングできます。ヘッドホンの L/R チャンネルからチャンネル 1 と 2 の音声がミックスして出力されます。

IP SOLO：Dante オーディオネットワークで接続した別の DWR-R03D の音声をモニタリングできます。ヘッドホンの L/R チャンネルから、選択したレシーバーチャンネルの音声が出力されます。

IP MIX：Dante オーディオネットワークで接続した別の DWR-R03D の音声をモニタリングできます。ヘッドホンの L/R チャンネルから選択したレシーバーチャンネルの音声 (最大 8 チャンネル) がミックスして出力されます。

ご注意

- IP SOLO および IP MIX を使用する場合は、モニタリングしたい機器すべてを Dante および DWX 機器間通信の両方のネットワーク接続を行ったうえで、各機器のモニターモードの設定を合わせてください。
- MONITOR MODE を IP SOLO または IP MIX に設定している場合は、MONITOR ボタンが点灯するまで長押ししてください。
- 本機およびモニタリングしたい機器はすべて、同じネットワークに接続してください。

同期信号の選択 (SYNC SOURCE)

本機の同期信号源を選択します。

32 kHz から 96 kHz までの外部同期 (ワードクロック) に対応します。

同期状態はトップ画面のデジタル出力同期表示部に「INT」または「EXT」で表示されます。「EXT」表示で、かつ同期がアンロックの場合には、表示が点滅します。

INTERNAL：内部の同期信号 (48 kHz) で動作します。

EXTERNAL：外部からのワードクロック信号に同期して動作します。

AUTO：外部からの同期信号を優先し、外部同期がなくなった場合には自動的に内部同期に切り替わります。

音声遅延時間表示とチャンネル間の遅延差

補正 (DELAY ADJUST)

デジタルワイヤレストランスミッターとデジタルワイヤレスレシーバーの間で通信をする際、各機器で行う音声信号処理によって音声が遅延します。

音声遅延時間の表示

本機は、デジタルワイヤレストランスミッターからメタデータで送られてくる送信機の遅延時間と、本機の遅延時間の合計をレシーバーチャンネルごとに表示します。

ミキサやディレイプロセッサなどで遅延時間の調整を行う際には、目安にしてください。

表示例：

1CH D : 2.5ms , A : 1.5ms

2CH D : 2.5ms , A : 1.5ms

D : DIGITAL OUT
A : ANALOG OUT

レシーバーチャンネル 1、2 の遅延時間補正

本機で使用する 2 台のデジタルワイヤレストランスミッターのモデルが異なる場合は、レシーバーチャンネル 1、2 の間で遅延時間に差が出る場合があります。その場合、本機能を ON にすると、遅延時間が大きいほうのレシーバーチャンネルに合わせてもう一方の遅延時間を補正することができます。

ミキサーやディレイプロセッサなどで遅延時間を補正する場合は、OFF に設定したままでお使いください。

AF ピークレベルのホールド時間の設定

(AF PEAK HOLD)

トップ画面などに表示されているオーディオレベルメーターのピークレベルのホールド条件を設定します。

2SEC : オーディオレベルメーターのピーク表示を 2 秒間保持します。

HOLD : オーディオレベルメーターのピーク表示を解除するまで保持します。

ピーク表示の解除について

トップ画面を表示した状態でジョグダイヤルを押すことでピーク表示が解除されます。AF PEAK HOLD を HOLD に設定しているときにピーク表示を解除したい場合は、各チャンネルのトップ画面を表示しジョグダイヤルを押してください。

SUB OUT 出力の設定 (SUB OUT SEL)

SUB OUT 1/2 端子から出力する信号を選択します。

AES/EBU : AES3 フォーマットのデジタル音声信号が出力されます。

ANALOG : バランスの音声信号が出力されます。

冗長性に関する機能 (REDUNDANCY サブメニュー)

複数レシーバーのチャンネル自動切り換え の設定 (AUTO FREQ CHANGE)

ホストとなる DWR-R03D でチャンネルを検索し、クライアントとなるほかの DWR-R03D に割り当てたチャンネルの電波状況が悪化した際、電波状況が良好なチャンネルに自動的に変更する機能です。

◆ 詳しくは、「自動的に安全な周波数に切り換える」(17 ページ)をご覧ください。

音声出力先の交換の設定 (OUTPUT SWAP)

チューナー 1 とチューナー 2 の音声出力先を、特定の操作によって入れ換えることができます。

OFF : 音声出力先を入れ換えません。

ON : 音声出力先を入れ換えることができます。

ご注意

- AUTO FREQ CHANGE 機能または CHANNEL COORDINATE 機能が有効になっているときは、この機能を使用できません。
- DIVERSITY 設定で 4-ANTENNA を選択しているときは、この機能を使用できません。

音声出力先を入れ換えるには

チューナー 1 とチューナー 2 のディスプレイがどちらもトップ画面のとき、チューナー 1 とチューナー 2 のジョグダイヤルを 1 秒以上長押しします。

音声出力先が入れ換わると、ディスプレイのトランスミッター名が表示されている行が白黒反転し、行の最後に「[OUT1]」「[OUT2]」と表示されます。

ご注意

音声出力先の入れ換えは電源 OFF 時には保持されません。電源 ON にして運用を再開するときに、必要に応じて音声出力先の入れ換え操作を再度行ってください。

ネットワークに関する機能 (NETWORK サブメニュー)

ご注意

NETWORK サブメニューは、電源投入後に NETWORK 機能の内部処理が完了したあとに設定できます。設定できる状態になると、各機能名の横に > マークが表示されます。

本機の名前の設定 (RECEIVER NAME)

16 文字以内で本機に名前を付けることができます。入力しかたは、「パスワード方式を使う (PASSWORD)」(19 ページ)と同様です。

すでに名前を付けてあるときは、この機能を選択すると設定された名前を表示します。

ネットワークモードの設定 (NETWORK MODE)

LAN 端子からネットワークに伝達される信号を設定します。

SWITCHED : 両方の LAN 端子から同じ信号が伝達されます。PRIMARY 端子、SECONDARY 端子どちらからも Dante プライマリネットワーク用および DWX 機器間通信用の信号が伝達されます。1 つのネットワークで運用する場合や、ほかの受信機とダイジーチェーン接続する場合などに選択してください。

REDUNDANT : Dante のリダンダント機能が有効な設定です。PRIMARY 端子から Dante プライマリネットワークおよび DWX 機器間通信用の信号が、SECONDARY 端子から Dante セカンダリネットワーク用の信号が伝達されま

す。2つのネットワークを使用することで、Dante 音声に冗長性を持たせたい場合に選択してください。

SEPARATE : Dante ネットワークと DWX 機器間ネットワークを分離する設定です。PRIMARY 端子から Dante ネットワーク用の信号が、SECONDARY 端子から DWX 機器間通信用の信号が伝達されます。

Dante 用デバイスネームの設定 (DANTE ID)

Dante ネットワーク上で機器を識別するためのデバイス名を設定します。

ID MODE

YAMAHA ID : 本機と通信可能なヤマハ製の機器を接続する場合に選択してください。

FREE ID : ID を自由に設定できます。入力のしかたは、「パスワード方式を使う (PASSWORD)」(19 ページ) と同様です。

ID

設定されている ID が表示されます。

DWX 機器間通信用 IP アドレスの設定 (RECEIVER IP)

DWX 機器間通信に使用する IP アドレスを設定します。

IP MODE

AUTO : 自動でネットワークの設定が割り当てられます。

MANUAL : 手動でネットワークの設定を行います。

IP ADDRESS

IP MODE が MANUAL のときは IP アドレスを設定します。AUTO のときには割り当てられた IP アドレスが表示されます。

SUBNET MASK

IP MODE が MANUAL のときはサブネットマスクを設定します。AUTO のときには割り当てられたサブネットマスクが表示されます。

GATEWAY

IP MODE が MANUAL のときはデフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定します。AUTO のときは、自動的に割り当てられたデフォルトゲートウェイの IP アドレスが表示されます。

Dante Primary 通信用 IP アドレスの設定 (DANTE MAIN IP)

Dante Primary 通信に使用する IP アドレスを設定します。設定項目は、上記の「DWX 機器間通信用 IP アドレスの設定 (RECEIVER IP)」と同じです。

Dante Secondary 通信用 IP アドレスの表示 (DANTE SUB IP)

Dante Secondary 通信で使用される、IP MODE (AUTO 固定)、IP アドレス、サブネットマスクの設定値が表示されます。

【注意】

DANTE SUB IP が有効になるのは、NETWORK MODE が REDUNDANT に設定されているときだけです。

アラートに関する機能 (ALERT FUNCTION サブメニュー)

電波入力レベル低下 (RF LOW)

電波入力レベルの低下を検出したときに、ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

電波入力レベル超過 (RF OVER)

電波入力レベルの過大入力を検出したときに、ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

受信信号品質低下 (QL LOW)

受信信号品質の低下を検出したときに、ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

【補足】

受信信号の品質の低下を検出したと判断するレベルを設定できます。

- ◆ 詳しくは、「受信信号品質の低下を判断するレベルを設定する (QL ALERT SENS)」(31 ページ) をご覧ください。

オーディオ入力のピークレベル超過 (AF PEAK)

オーディオ入力のピークレベルの超過を検出したときに、ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

トランスミッターの電池残量低下 (TX BATTERY LOW)

トランスミッターの電池残量の低下を検出したときに、ALERT インジケーターによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

秘匿通信設定の不一致 (ENCRYPTION UNMATCH)

トランスミッターと本機の秘匿通信設定の不一致を検出したときに、ALERT インジケータによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

外部同期信号の同期外れ (EXTERNAL WORD SYNC UNLOCK)

外部同期 (ワードクロック) に同期できない場合に、ALERT インジケータによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

オーディオコーデックモードの不一致 (CODEC MODE UNMATCH)

トランスミッターと本機のオーディオコーデックモードの不一致を検出したときに、ALERT インジケータによる警告を行うかを設定します。

ON/OFF

受信信号品質の低下を判断するレベルを設定する (QL ALERT SENS)

受信信号の品質が低下したと判断するレベルを設定します。

HIGH : QL メーターが 4 目盛り以下になった場合に低下と判断します。

MID : QL メーターが 2 目盛り以下になった場合に低下と判断します。

LOW : QL メーターが 1 目盛り以下になった場合に低下と判断します。

ご注意

ALERT FUNCTION サブメニューの QL LOW が OFF の場合、受信信号の品質が低下しても ALERT インジケータは点灯しません。

◆ 詳しくは、「受信信号品質低下 (QL LOW)」(30 ページ) をご覧ください。

ディスプレイに関する機能 (DISPLAY サブメニュー)

ディスプレイの明るさ設定 (BRIGHTNESS)

有機 EL ディスプレイの明るさを 10 段階で調整します。設定できる値は下記のとおりです。

(暗) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 (明)

ディスプレイの自動消灯 (DIMMER MODE)

一定時間後に有機 EL ディスプレイの明るさを減光したり、消灯させる機能です。

AUTO OFF : 30 秒後に消灯します。SET や + または - ボタンを押すと点灯します。

AUTO DIMMER : 30 秒後に減光します。SET や + または - ボタンを押すと点灯します。

ALWAYS ON : ディスプレイの明るさ設定機能で設定された明るさで常時点灯します。

本機の設定変更を禁止する (SETTING LOCK)

UNLOCK : 設定変更が可能になります。

LOCK : 設定変更をロックします。

ご注意

ロック中でも各種メニューの内容は確認できます。また、MONITOR ボタンとヘッドホンボリュームも使用できます。

設定記憶機能 (USER MEMORY)

各種設定を本機に記憶させたり、記憶させておいた設定内容を読み込むことができます。

SAVE を実行すると設定内容を記憶し、LOAD を実行すると記憶させた設定内容を読み込みます。

記憶・読み込みができるのは RECEIVER メニュー、RF REMOTE メニューおよび UTILITY メニューの設定項目です。

工場出荷設定に戻す (FACTORY PRESET)

各設定項目を工場出荷時の状態に戻します。

この項目を選択すると、工場出荷設定に戻すことを確認するメッセージが表示されます。ジョグダイヤルを回して YES を選択すると、本機の設定が工場出荷設定に戻ります。

ソフトウェアバージョンの表示 (VERSION)

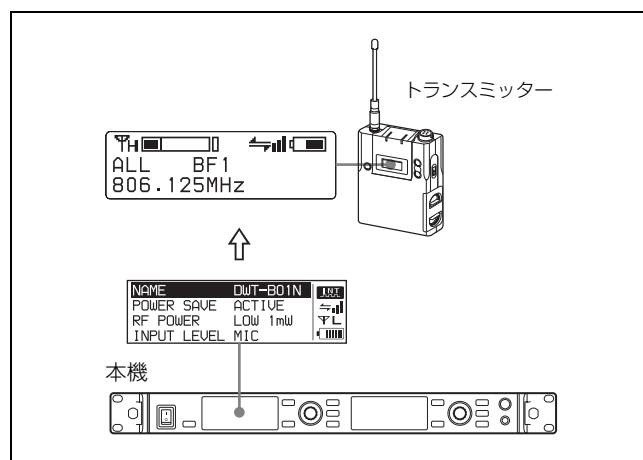
本機のソフトウェアバージョンを表示します。

本機でトランスミッターの設定を変更する

◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」(22 ページ)をご覧ください。

本機とペアリングされたトランスミッターの設定を、RECEIVER メニューの GP/CH 選択機能 (22 ページ) や TRANSMITTER メニュー (24 ページ) で変更することができます。

あらかじめ RF REMOTE メニューにてペアリングを行い、RF REMOTE を ON にしてワイヤレスリモートコントロール機能が動作可能な状態にしてから設定を行ってください。



周波数帯域の設定 (BAND)

この設定は RECEIVER メニューの BAND 画面で行います。

◆ 詳しくは、「周波数帯域を選択する」(14 ページ)をご覧ください。

グループ / チャンネルの設定 (GP/CH)

この設定は RECEIVER メニューの GP/CH 画面で行います。

◆ 詳しくは、「グループ / チャンネルを選択する」(14 ページ)をご覧ください。

トランスミッター名称の設定 (NAME)

トランスミッターの名称を設定します。

省電力設定 (POWER SAVE)

電池消費を抑えるため、ワイヤレスリモートコントロールでトランスミッターの電源をスリープに設定することができます。

ご注意

トランスミッターの設定を SLEEP (スリープ) に変更した場合、音声伝送用の電波がストップしてメタデータも送信されなくなります。このため、TRANSMITTER メニューのデータ表示は、POWER SAVE 機能の「SLEEP」以外はすべて「NO DATA」になります。

送信電力の設定 (RF POWER)

トランスミッターの送信電力を変更します。

ご注意

- 選択できる送信電力の値は、トランスミッターの機能により異なります。
- トランスミッターの最大送信電力設定を変更した場合は、必ずペアリングを実行してください。ワイヤレスリモートコントロール機能を使った送信電力の設定が行えなくなる可能性があります。

◆ ペアリングについて詳しくは、「RF REMOTE メニュー」(25 ページ)をご覧ください。

オーディオ入力レベルの設定 (INPUT LEVEL)

トランスミッターのオーディオ入力レベルの設定を変更します。

ご注意

トランスミッターによっては、本機能に対応していない場合があります。

アッテネーターの設定 (ATT)

トランスミッターのオーディオ入力レベル設定が MIC に設定されている場合、アッテネーターの値を変更します。

ご注意

選択できるアッテネーターの値は、トランスミッターの機能により異なります。

ローカットフィルターの設定 (LCF)

トランスミッターのローカットフィルター設定を変更します。

ご注意

選択できる周波数は、トランスミッターの機能により異なります。

+48 V 電源設定の変更 (+48V)

トランスミッターの +48 V を ON/OFF できます。

ご注意

トランスミッターによっては、本機能に対応していない場合があります。

トランスミッターの累積使用時間のリセット (TIME)

トランスミッターの累積使用時間をリセットできます。

オーディオコーデックモードの設定 (CODEC MODE)

この設定は RECEIVER メニューの CODEC MODE 画面で行います。

オーディオコーデックモードを設定します。

ご注意

トランスミッターによっては、本機能に対応していない場合があります。

内蔵信号の設定 (INTERNAL SG)

トランスミッターの内蔵信号を発生させるかどうかを設定します。

ロック機能 (LOCK)

トランスミッターの POWER ボタンの操作や各種設定の変更ができないようにロックするかどうかを設定します。

ご注意

選択肢は、トランスミッターの機能により異なります。

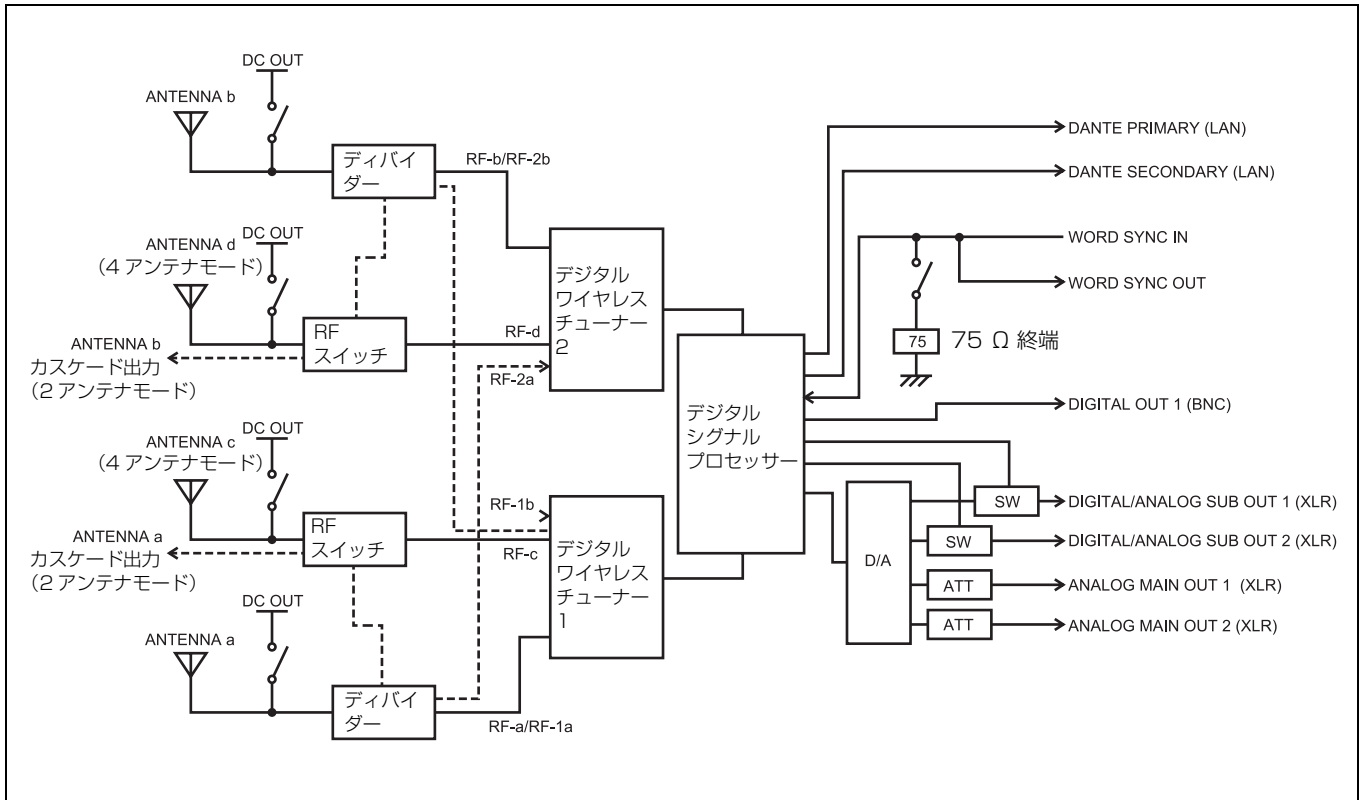
電池残量の表示方式の設定 (BATTERY REMAIN)

トランスミッターの電池残量の表示方式を設定します。

ご注意

- トランスミッターによっては、本機能に対応していない場合があります。
- TIME に設定すると、本機で設定内容のメタデータを受信した際、本機の累積使用時間の表示位置に TIME の内容（トランスミッターを運用可能な残り時間の概算）が表示されます。本機で累積使用時間を表示したい場合は、TIME 以外に設定してください。
- TIME および PERCENT を選択しているときは、ワイヤレスリモートコントロール機能を使って、累積使用時間のリセットを行うことはできません。
- 使用状況や環境によっては、正しく表示されないことがあります。

ブロックダイアグラム



ALERT インジケーターが点灯したら

他のインジケーターの表示	警告の原因	処置
AF/PEAK インジケーターが赤く点灯	トランスミッターのオーディオ入力レベルがピークレベルを超えている。	トランスミッターのオーディオ入力アッテネーターを変更して入力レベルがピークを超えないようにしてください。 ワイヤレスリモート機能で本機からの設定変更が可能です。
電池残量表示が点滅	トランスミッターの電池が間もなく切れる。	トランスミッターの電池を交換してください。
QL メーターの点灯本数が減少	アンテナへの電波入力レベルの低下または妨害波（混信）などの影響で受信信号の品質が低下している。	(1) RF インジケーターが赤く点灯または消灯している場合は、アンテナへの電波入力不足が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> トランスミッターの送信電力の設定を確認してください。 受信アンテナ、レシーバー間の各機器やケーブルの接続および設定を確認してください。 トランスミッターと受信アンテナの距離を近づけてお使いください。 (2) RF インジケーターが緑色点灯なのに、QL メーターの点灯本数が減少する場合は混信の可能性があります。 <ul style="list-style-type: none"> 運用チャンネルプランに問題がないか確認してください。 ほかに運用している外来電波がないか確認してください。 (3) 受信信号の品質が低下したと判断するレベルを変更することで、ALERT インジケーターを点灯させる基準を変更できます。
RF インジケーターが橙色に点灯	アンテナへの電波入力レベルが $87 \text{ dB } \mu$ ($0 \text{ dB } \mu = 1 \text{ } \mu \text{ VEMF}$) 以上ある。	多チャンネル同時運用に影響が出る可能性があります。次のいずれかを試してください。 <ul style="list-style-type: none"> アンテナからトランスミッターを離してお使いください。 本機の ANT ATT a/b/c/d 設定値を上げてください。ANT ATT a/b/c/d 設定値を上げた場合は、必ずトランスミッターとレシーバーとの伝送距離限界も確認してください。
RF インジケーターが赤く点灯または消灯	アンテナへの電波入力レベルが受信ぎりぎり、または受信不能。	<ul style="list-style-type: none"> トランスミッターの送信電力の設定を確認してください。 受信アンテナ、レシーバー間の各機器やケーブルの接続および設定を確認してください。 トランスミッターと受信アンテナの距離を近づけてお使いください。
オーディオ入力レベルメーター部分に鍵アイコンが点滅	トランスミッターと本機の秘匿通信設定が合っていない。	トランスミッターと本機の秘匿通信設定を合わせてください (18 ページ)。
デジタル出力同期表示の「EXT」が点滅	DIGITAL OUT 端子からの出力信号が、外部同期ワードクロックに同期していない。	<ul style="list-style-type: none"> 同期信号入力部の接続が正しいか確認してください。 同期信号が本機の仕様にあっているか確認してください。
CODEC MODE UNMATCH と表示	トランスミッターと本機のオーディオコーデックモードが合っていない	トランスミッターと本機のオーディオコーデックモードの設定を合わせてください。

エラーメッセージ

メッセージ	意味
PLL UNLOCK	PLL がロックされていない。
FAN STOP	冷却ファンが動いていない。
PHONES OVER CURRENT	PHONES 端子からの音声出力が、許容電流を超えた。またはショートした。
ANTENNA OVER CURRENT	ANTENNA IN 端子からの DC OUT 出力が許容電流を超えた。またはショートした。
CPU EEP ROM NG	CPU EEP ROM のデータが正しくない。
RF EEP ROM NG	RF EEP ROM のデータが正しくない。

故障かなと思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

症状	原因	対策
音が出ない。	トランスミッターとレシーバーのチャンネルが違っている。	トランスミッターとレシーバーのチャンネルを合わせてください。
	トランスミッターの電源がOFFになっている。	トランスミッターの電源、電池を確認してください。
	秘匿通信機能の設定が、レシーバーとトランスミッターとで違っている。	トランスミッターとレシーバーの秘匿通信機能の設定が同じになっているか確認してください。
	WORD SYNC IN/OUT 端子の同期信号の入力/出力状態と 75 Ω 終端スイッチの設定があていない。	「ワードクロックとオーディオの接続例」(12 ページ) を参考に、接続および 75 Ω 終端スイッチの設定を確認してください。
	オーディオコーデックモードの設定が、レシーバーとトランスミッターとで違っている。	レシーバーとトランスミッターのオーディオコーデックモードの設定を同じにしてください。
音が小さい。	トランスミッターのアッテネーターの設定値が大きい。	トランスミッターのアッテネーターを適正量に設定してください。
音が歪む。	トランスミッターのアッテネーターの設定値が小さい。または0である。	トランスミッターへの入力音量が過大です。音が歪まないようにトランスミッターのアッテネーターを設定してください。
	トランスミッターの入力レベルが MIC 設定のまま LINE レベルの信号を入力している。	トランスミッターに付属の取扱説明書を参考にして、入力レベルを LINE に設定してください。
音切れ、ノイズが発生する。	トランスミッターの電源を切っても、レシーバーの RF インジケーターが点灯している。	周辺に妨害波が出ています。まず、レシーバーの RF インジケーターが点灯していないチャンネルに設定し、次に、トランスミッターを同じチャンネルに設定してください。2 本以上のトランスミッターを使用している場合は、妨害電波のない他のグループに変更してください。クリアチャンネルスキップ機能 (15 ページ) が便利です。
	2 台以上のトランスミッターが同じチャンネルになっている。	同一チャンネルで 2 本以上のトランスミッターは使用できません。付属の CD-ROM 「Manuals for Digital Wireless Receiver」 に収録されている周波数リストに従って、各トランスミッターのチャンネルを設定し直してください。
	チャンネルが同一グループ内の設定になっていない。	本機のチャンネルプランは、複数台のトランスミッターを使用する場合、それぞれのトランスミッターが混信しないように設定してあります。使用するトランスミッターを同一グループ内のチャンネルに設定し直してください。
ワイヤレスリモートコントロールができない。	ペアリングされていない。	ペアリングを行ってください。(25 ページ)
	通信可能な距離以上にトランスミッターと離れている。	コンディションレベル (7 ページ) を確認し、レベルが低い場合はトランスミッターとの距離を近くしてください。
	ペアになっていたトランスミッターが別のレシーバーとペアリングされた。	再度、コントロールしたいトランスミッターとペアリングを行ってください。
	トランスミッターのソフトウェアバージョンが本機との組み合わせに適合していない。	トランスミッターソフトウェア対応表で、トランスミッターのソフトウェアバージョンが本機との組み合わせに適合しているか確認してください (38 ページ)。適合していない場合は、ソフトウェアをアップデートする必要があります。ソニーのサービス窓口へお問い合わせください。
ディスプレイが暗い。	ディスプレイの明るさが低く設定されている。	メニュー設定でディスプレイの明るさを調節してください。(31 ページ)
MAIN OUTPUT の音声にノイズが発生する。	GROUND LIFT が LIFT に設定されている。	GROUND に設定すると改善することがあります。(23 ページ)
Wireless Studio で本機を認識できない。	本機に対応していないバージョンの Wireless Studio を使用している。	Wireless Studio をアップデートしてください。

使用上のご注意

有寿命部品について

電解コンデンサの寿命は約5年です。
(常温で1日に8時間、1カ月で25日間、通常で使用すると想定した場合)
したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。

ネットワークセキュリティについて

使用環境によってはネットワーク上の意図せぬ第三者からアクセスされる可能性があります。本機をネットワークに接続する際には、セキュアなネットワークであることをご確認の上ご使用ください。意図せぬ第三者からのアクセスにより、データ漏洩等、セキュリティ上の問題が発生した場合、弊社ではそれによって生じたあらゆる損害に対する責任を負いかねます。

使用・保管場所

- 本機は周囲温度0℃～50℃の範囲で動作します。
- 本機を電力機器（回転機、変圧器、調光器等）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信アンテナの位置やワイヤレスマイクロホンの使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置でご使用ください。
- 本機を騒音の多い場所や振動の多い場所で使用すると、振動が直接本体に伝わり、雑音発生（マイクロホニック）の原因となり、規定のS/Nを満足しない場合があります。影響を受けると考えられるものには、次のようなものがありますので、十分に注意してください。
 - 回転機、変圧器などの付近
 - 空調機器より発生する騒音、または風を直接受ける場合
 - PA（Public Address）システムのスピーカー付近
 - スタジオなどに設置していて、スタジオの機器をぶつけたり、たたいたり、物を落としたりした場合対策としては、影響を受ける条件からできるだけ離れたり、緩衝材を敷くなどの処理をしてください。

お手入れ

- 水分やほこりの多い所、活性ガスにさらされる所で使用したあとは、早めにコネクタ部や本機表面のお手入れを行ってください。お手入れを怠ったり、このような場所で長時間使用したりすると、機器の寿命を縮めるおそれがありますので、ご注意ください。
- 表面やコネクタ部の汚れは、乾いた柔らかい布でふきとってください。シンナーやベンジンなどの薬品類は、表面の仕上げをいためますので使わないでください。

送信機のソフトウェアバージョンについて

トランスミッターのソフトウェアバージョンが本機との組み合わせに適合していない場合、ワイヤレスリモートコントロール機能および秘匿通信機能が動作しないことがあります。本機との組み合わせに適合しているトランスミッターのソフトウェアバージョンは下記の表をご覧ください。正しく動作させるにはソフトウェアをアップデートする必要があります。なお、ソフトウェアのアップデートについては、ソニーのサービス窓口へお問い合わせください。

- ◆ ソフトウェアバージョンの確認方法については、各送信機の取扱説明書をご覧ください。

機種名	ソフトウェアバージョン
DWM-01	バージョン 1.12 以降
DWT-B01（シリアル No.30999 以下）	バージョン 1.22 以降
DWT-B01（シリアル No.31001 以上）	バージョン 2.13 以降

CODEC MODE の互換性について

CODEC MODE の MODE2 は、ソフトウェアバージョン 1.0x の第二世代の DWX シリーズ（下記対象機器）とは伝送フォーマットに互換性がありません。そのため、本機の CODEC MODE を MODE2 に設定している場合、ソフトウェアバージョン 1.0x の下記対象機器を接続すると、音声が出力されません。ソフトウェアバージョン 1.0x の下記対象機器をお使いの場合は、ソフトウェアをアップデートする必要があります。なお、ソフトウェアのアップデートについては、ソニーのサービス窓口へお問い合わせください。

- ◆ ソフトウェアバージョンの確認方法については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

対象機器

- DWM-02N
- DWM-03N
- DWT-B01N
- DWR-P01DN
- DWR-R02DN
- DWR-S02DN

受信電波が弱い場合の音声劣化について

デジタルワイヤレスシステムの場合、電波が届く限界距離まで音声品質が一定に保たれます。さらに受信電波が弱くなると、最終的にはデータの同期がとれなくなり音声断となります。そのような特性を踏まえ、ソニーのデジタルワイヤレスシステムでは電波の到達限界点から音声断にいたる音声劣化の領域において、大きなノイズ音の発生を抑え、極力自然に音声が劣化していくようデジタル処理を行っております。

ライセンスについて

本製品は、T-Engine フォーラム
(<http://www.t-engine.org>) の T-License 2.0 に基づき
 μ T-Kernel ソースコードを利用しています。

本製品には、ソニー以外のソフトウェアの権利者が定める
使用許諾条件を伴うソフトウェア（オープンソースソフト
ウェアを含む）が含まれている場合があります。
当該第三者のソフトウェアの利用条件については、付属の
CD-ROM「OSS Technical Information for Digital Wireless
Receiver」に収録されているソースコード、テキスト、
ファイルなどを参照してください。

主な仕様

受信部

受信方式	トゥルーダイバーシティ方式
回路方式	ダブルスーパーヘテロダイン
局部発振	水晶制御 PLL シンセサイザー
感度	20 dB μ (0 dB μ = 1 μ V _{EMF}) 以下 (ビットエラーレート = 1×10^{-5} 時、 S/N 劣化なし)

アンテナ部

アンテナ端子	2 DIVERSITY : 入力 : BNC-R、50 Ω (2) カスケード出力 : BNC-R、50 Ω (2)
	4 DIVERSITY : 入力 : BNC-R、50 Ω (4)
ブースターへの供給電圧	0 V/9 V/12 V
アッテネーター	0 dB/3 dB/6 dB/9 dB/12 dB

オーディオ部

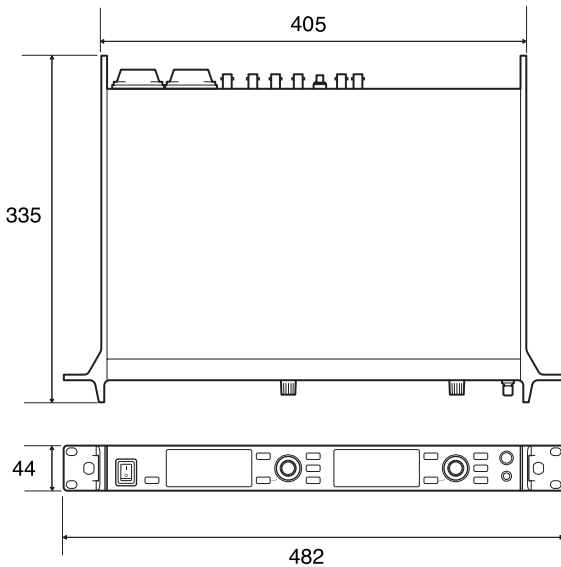
ダイナミックレンジ	106 dB 以上 (A-weighted)
全高調波歪率	MODE1、MODE2、MODE4 : 0.03% 以下 MODE3 : 0.3% 以下
音声遅延時間	MODE1 : 1.9 msec (アナログ出力)、 1.9 msec (デジタル出力) MODE2 : 0.5 msec (アナログ出力)、 1.5 msec (デジタル出力) MODE3 : 1.9 msec (アナログ出力)、 2.8 msec (デジタル出力) MODE4 : 0.6 msec (アナログ出力)、 1.6 msec (デジタル出力)
メイン出力	XLR-3-32 タイプ、150 Ω 以下 (2) 出力レベル (0 dBu = 0.775 V _{rms}) 最大 : + 24 dBu、基準 : - 58 dBu ~ - 12 dBu (1 dB ステップ可変)
サブ出力	XLR-3-32 タイプ (デジタル/アナログ切 り換え方式) (2) デジタル : 110 Ω 基準出力レベル - 36 dBFs アナログ : 47 Ω 以下 出力レベル (0 dBu = 0.775 V _{rms}) 最大 : + 24 dBu、基準 : - 12 dBu
デジタル出力	BNC-R、75 Ω (1) 基準出力レベル - 36 dBFs
ヘッドホン出力	ϕ 6.3 mm ステレオジャック

その他

Word Sync	入力端子：BNC-R（75 Ω 終端切り換えスイッチ付き） 出力端子：BNC-R 外部 Word Sync：32 kHz～96 kHz
ワイヤレスリモートコントロール	Cross Remote（2.4 GHz IEEE802.15.4 準拠）
LAN 端子	RJ-45 モジュラージャック（2） 1000BASE-T：IEEE802.3ab 準拠 100BASE-TX：IEEE802.3u 準拠 10BASE-T：IEEE802.3 準拠 Dante Digital Audio
ディスプレイ	OLED

一般

電源	AC：100 V/120 V 入力（1）、カスケード出力（1）
消費電力	34 W（AC 100 V 時）
許容動作温度	0 °C～50 °C
許容保存温度	-20 °C～+60 °C
外形寸法図（単位：mm）	



質量	約 3.9 kg（付属アンテナ取付け時）
付属品	ホイップアンテナ（2） 電源コード（1） 電源カスケード用コード（1） 3 極→2 極変換プラグ（1） プラグホルダー（2） 本体脚（4） 帯域識別ラベル（1） ワランティブックレット（1） ご使用になる前に（1） 取扱説明書（CD-ROM）（1） オープンソースソフトウェア技術情報（CD-ROM）（1）

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。
- 本製品を使用したことによるお客様、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切の責任を負いかねます。
- 諸事情による本製品に関連するサービスの停止、中断について、一切の責任を負いかねます。

商標について

本書に記載されているシステム名、製品名、会社名は、一般に各開発メーカーの登録商標または商標です。なお、本文中では、®、™ マークは明記していません。

対応する周波数帯とチャンネル間隔

本機には、テレビホワイトスペース帯（WS帯）専用モデルと 1.2 GHz 帯に加えて WS帯の一部および B 型をカバーしたモデルがあります。

下線表記は工場出荷時の設定です。

チャンネル間隔：25 kHz（B BAND は 125 kHz）

モデル No. (Model No.)	バンドブロック (BAND BLOCK) *	周波数帯域 (BAND)	周波数	工場出荷時の設定
W	WL	<u>TV13-16</u>	470.150 ~ 494.000 MHz	00 13-010 470.250MHz
		TV17-20	494.025 ~ 518.000 MHz	
		TV21-24	518.025 ~ 542.000 MHz	
	WM	TV25-28	542.025 ~ 566.000 MHz	
		TV29-32	566.025 ~ 590.000 MHz	
		TV33-36	590.025 ~ 614.000 MHz	
		TV37-40	614.025 ~ 638.000 MHz	
	WH	TV41-44	638.025 ~ 662.000 MHz	
		TV45-48	662.025 ~ 686.000 MHz	
		TV49-52	686.025 ~ 710.000 MHz	
53		710.025 ~ 713.850 MHz		
G	WH	<u>TV41-44</u>	638.025 ~ 662.000 MHz	00 41-005 638.125MHz
		TV45-48	662.025 ~ 686.000 MHz	
		TV49-52	686.025 ~ 710.000 MHz	
		53	710.025 ~ 713.850 MHz	
	B	B BAND	806.125 ~ 809.750 MHz	
	1.2G	1.2L	1240.150 ~ 1246.000 MHz	
		1.2M	1246.025 ~ 1251.825 MHz	
		1.2H	1253.175 ~ 1259.850 MHz	

* バンドブロック（WL、WM、WH）は、送信機・受信機の対応周波数を識別するためのソニー独自の周波数帯域呼称です。

お問い合わせは

「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1